

271

113



始



萬國幼稚園協會案
日本幼稚園協會譯
倉橋惣三序

幼稚

園保育要目

13. 11. 5
内交

東京 敎文書院發兌

271-113

序

本書は萬國幼稚園協會の特別委員によつて編纂せられ、アメリカ合衆國教育局により出版せられた *The Kindergarten Curriculum* (Bureau of Education, Bulletin, 1919, No. 16) を東京市番町幼稚園保母檜山京子君に囑して纂譯したものである。

本書は初め、本會發行の「幼児の教育」誌上に連載したものであるが、更めて此の小冊子として出版するに當つて、原著編纂委員長たるシカゴ大學幼稚園のテンプル女史に書を送つて教育局の諒解を得んことを乞ふた。テンプル女史からは、同幼稚園で特に此の細目に就て親しく意見を聽いた關係もある。

直に返書を寄せて、此の出版を心から喜ぶといふ意をあらはされた。また教育局幼稚園教育部のヴァンデウォルカー女史からも、親切の辭を以て承認を與へて單に此書のみならず、幼稚園に關する同局の出版物が、本會を通じて我國に紹介せらるゝことは、斯界のために大に喜びとするところだといふ意味をも添へられた。此の出版に當つて兩女史の好意に對し、深く其の好意を謝せざるを得ない。

此の書の内容に就ては我國幼兒教育界のために最も有益な一文献を加ふることゝ信じて居る。實際家は、之れによつて、自家の教育案に参考指針を得べく、研究者は、之れによつて、

幼兒教育の新らしい考へ方を理解する助を得らるゝであらう。而して、題して幼稚園保育要目といふけれども、小學校幼年の教育のためにも直接適切な資料たるべきは、原著編纂の趣旨が初めから、それをも主要目的の中に含めて居ることによつて、疑ひなきことである。

本會は此の小冊子の、廣く我國の幼稚園と小學校とに讀まれんことを切に希望してやまない。

大正十三年十月

日本幼稚園協會主幹

倉橋惣三

幼稚園保育要目 目次

第一章	汎論	一
第二章	主材、生活行事、自然科學	三
	目的、主材	四
	方法	六
	主材梗概	七
	梗概の説明	九
	効果	三
第三章	製作	三
	一般目的	三
	特殊目的	三
目次	主題	一四

構成の材料……………一

第四章 藝術……………三

一般目的……………六

特殊目的……………八

主題……………九

一般目的に關した方法……………四

特殊目的に關しての方法……………四

効果……………七

第五章 言語……………九

一般目的……………九

特殊目的……………九

主題……………九

方法……………一〇

誤つた方法……………五

正しい方法……………五

口述言語の補助……………五

効果……………六

第六章 文學……………六

一般目的……………六

特殊目的……………六

主題……………六

言語の選擇……………六

方法……………七

効果……………七

第七章 遊戯とゲーム……………七

一般目的……………七

目次

特種目的	五
主材及方法	五
効果	六
第八章 音楽	六
一般目的	六
性質目的	六
主題	六
一般目的に關する方法	六
特殊目的に關する方法	七
効果	七

幼稚園保育要目 目次終

幼稚園保育要目

萬國幼稚園協會著
日本幼稚園協會譯

第一章 汎論



此の幼稚園要目は、四歳から六歳までの幼児の必要に應じて選擇した、主題及實際から成立つものである。その主題の内容は、兒童の共通經驗を代表したもので、即ち、

1. 自然物及自然現象
人類及人事（家庭及社會生活）
智の産物（文學、音楽、美術等）

等に相偶して、兒童が得た經驗を含んでゐる。實際言語發表、手工、畫、唱歌、劇、競技等は經驗の發表さるゝ通路であつて、又それによつて經驗が、限定し、組織立てられるものである。

是等の實際の様式は、幼兒の本能の或物を満たし、なほ其の使用法當を得たる時は、兒童の啓發と

教育に特種な貢献をなし得るものである。

此要目の總べては、實際と發表に重きを置く最良の小學校課程に一致する所がある。故に幼稚園と小學校初等教育とに共通な各主題の教授、又は教授法は連絡を保ち得る様に整理されなければならない。

授、幼稚園が良く設置せられた學校制度の一部と成た時は、読み方と書き方が幼稚園の後半期に於て紹介さるべきか、否か、と云ふ問題が屢々提出される。其の答としては、其の年齢に於ては總ての幼児が著手し得るに充分であるとは認めない、とせられてある。何處でも五歳から七歳までの子供は、或點では自分の名を書くこと、自分の周圍にある印刷や書き物の文字を解釋しようとする事に熱心である。そして幼児は言語上の實力を、自分で書いたり讀んだりする處までのばさうとして居る。多くの年長者も此の事には非常に興味を持ち又重視してゐるのである。かような時期が來ると——幼稚園でも又小學校初等科でも——教師又は指導者は、最上の方法を以て此の問題を教へよう準備しなければならぬ。現今読み方と書き方を教へる方法は、一般幼稚園教師養成の中にも含まれてあるが、もしかような養成を受けなかつた教師達は自分で修得すべきである。蓋し總ての教師達はそれが充分適當の時機と思つた時には、子供に對して、言語使用の道程に於ける第二步を進め得る。と同様に小學校初等科教師も、發達の遅い爲に、読み方や書き方の教授を受けなかつた兒童に對して——幼稚

園では特種な方で授けられた仕事を——上手に與へる様に準備すべきである。實際此の問題は、兒童の學校生活に於て屢々猶豫せられすぎるよりも、早すぎる方が多い様である。然し此の兩方面の過失は、幼稚園及び小學校初等科の教師達が、兒童の學校生活の最初の三四年間に教へるべき必要事項に對して充分の準備を持って居れば容易に避けらるべき事である。

今や委員會(萬國幼稚園協會の)は、此處に提出された、幼稚園要目に基いて小學校の課程を作らんとして居る。此の委員會は、読み方と、書き方の問題に對して最も正統な方法を取ると信ずるものである、なほ又是等の問題が、幼稚園要目、小學校課程兩者の他の状態に非常に密接な關係のある事を示す、故に此處には此の問題に就いて、之れ以上に論ずべき必要はない。文章に於て、幼稚園要目を、

目的。主題。方法。實習等に分けて論ずる事とする。

第二章 主材。生活行事。自然科學

幼兒は、經驗と云ふ事の中に、社會接觸に據る經驗と、單なる自己經驗との區別をしない。又幼兒は自然物、自然現象、人間の活動に多大な興味を持つものである。故に日程を組立てる際にも、此の

二つの経験の間には確然たる區別を作らぬ事を希望する。

目的

目的

重要な環境の事物に對しての興味を増進すること。
経験を正確にし、擴張し、了解し、且つ組織立てること。
理想的な習慣と態度を養ふこと。

主材

主材

若し是等の目的が是認さるゝとしたら、日程を作るに際しては、絶えず基礎的考察を念頭に置かねばならぬ。

一 選定された主材は 兒童が興味を有するものか、又は重要だと感ずるものでなければならぬ。故に主として、主材は、兒童の自由な活動や計畫的な遊びの中に喜んで取り入れられ、又新しい経験への要求を満たす様なものでなければならぬ。
兒童は、彼等自身の自然性として、年長兒や成人の日常の仕事に依て暗示された空想の遊びにふける。

家事遊や人形遊、又家を建てたり、旅行をしたり、學校へ行たり、スケートをなしたりする。そして是等の遊びを容易ならしむる材料、事實、考案を大層熱心に取り入れる。同様に自然物や自然力は兒童の興味を最も長くとらへる。

二 選擇される家庭と社會生活は 兒童の興味を中心としたばかりではいけない。それ等の社會的地位と意義とを参照しなければならぬ。と云ふのは、是等の興味は次へくと發展すべきものであつて、食物、衣服、住宅、休息、美、娛樂等の一般人類の必要に關係深い活動と目的とを其の中に含有して居るからである。

三 兒童の日々の経験は 或興味竝に活動に對する刺激と情緒とを包有して居る。それらは特に選擇された主題ではなくとも、それにかゝはらず發表の機を與ふべきである。長靴や、レインコート、雨傘等の興味ある附屬物を持つた「雨の日」は畫いたり、歌つたり、又劇的な遊びに依て其興味を發表させる方が計畫立て、居つた立案や、仕事の何物よりも「雨の日」その日としての意味が深いのである。多くの價値ある自然経験は、日毎の豫定に對し偶然に勃發して來るものである。

兒童は、動物の動作、花や葉の色彩、貝類の珍しい形をよるこぶ。又彼等は蛾が繭から美しい絲を靜かにのばすのを不思議さうに目守て居る。そして月や星等の天體の出現にひきつけられる。かうした興味は日を重ぬるに従つて、兒童自らに日一日と明白になつて來るから、そこで適當な方法によ

つて是等の興味に就いての發表を奨励する事が必要になつて来る。

四 最後に兒童の完全な發達に必要な 兒童の發動と遊び——それは上に紹介した主材に何等暗示せられぬ全然別なもの——がある。

兒童は彼等自身の想像や理想を、具體的な材料で試めず機會を必要とする。實際子供は、選擇せられた主材とは何の係りもない。——然し子供の活動と、感激と興味とは親しい——多くの歌やお話を必要とする。かようにして子供は自發活動に依る自由行動——あちこち飛びまわつたり、立場を轉換したりする事等——を必要とする。

次章に是等の活動の種々な型の例を挙げる。

方法

方法

家庭社會生活及び、自然から選擇された主材を用ふる方法は、一般に次の様である。

【1】 實物、代表玩具、繪畫、會話、又は聯想に依て子供に親しい日常の經驗を呼び越すこと。

【2】 遠足又は教室其他に於ての實物教授に依て、經驗を擴張することと了解すること。

【3】 遊び或は二三の發表の方法に依て、經驗を組織立てる事を了解する事。

第三は常に兒童が興味を持って解決する問題を含んで居る。例へば土のお菓子屋さんでつこに就て考

主材梗概

主材梗概

へて見れば、先づ起る問題は、如何してお菓子を焼くかと云ふ事で、其處にはじめて鍋の必要が認められるのである。即ち兒童にとつての第一の問題は、

「如何にして此の紙片を私のお菓子をのせる器にしようか」と云ふ事であり、第二の問題は、

「如何して私はこのお菓子皿をあふる窯を造らうか」と云ふ事である。

此の主材梗概は、前述の標準に對しての説明である。即ち公立學校に於て價值ありと認められた主材、米國生れで教育のある米國市民の兩親を有つて良家庭から來る兒童。

かような、或る特殊な立場にある兒童の經驗から、直接引き出したものが此處に謂はるゝ主材である。

然し此の梗概は、數多の環境に適合し得るものと信ぜられ、且つ細い事件は異つた社會に於て、必要に應じて變化出來得るものである。

九月 十月 十一月

九月 十月 十一月

一 家庭生活 家族 家庭内の世話

第二章 主材 生活行事 自然科學

幼稚園保育要目
家族の食事の準備。

二 食物の起源 庭 菜園 市場 行商人 牛乳屋

食物の供給に關する職業。

食料品——果物、野菜、穀物、卵、ミルク、パン、バター、——に對する注意。

食物を造る簡単な方法。

三 季節に應じた活動及興味

冬の準備としての保藏法、罐詰法。

花、葉、果實、種子、クルミ類をあつめる事。

球莖を植ゑること。

毛蟲をあつめる事、感謝祭の準備、感謝祭。

十二月

十二月

クリスマスの準備。サンタクロース。玩具店。贈物造り。クリスマスツリー。クリスマス祭。

三月 二月

一月 二月 三月

1、**社會生活** 諸種の家族の住宅。街路。散歩、諸種の家族に必要な公共建築物。大小の商店。郵

四月 五月 六月

便局。消防派出所。學校。寺院。

2、**季節の興味** 戶外遊——雪遊。庭遊。

家庭其他建築内の暖法と點燈。聖バレンティン祭。ワシントン誕生記念日、秋植ゑた球莖の芽生ゑる世話。家畜——小鳥、小魚——の世話。

四月 五月 六月

1、**衣服に關した職業** 衣服を造ること。店で布を買ふこと。

2、**季節に應じた活動と興味** 公園。遊園の生活。自然界の春の訪れを迎ふる遠足。木々の芽ぐみ。渡り鳥の歸來。野の花。

戶外遊——石彈。コマ。庭園造り。鳩や鶏の雛のかへること。イースターの祭。イメデイの祭。

梗概の説明

九月 十月 十一月

一 家庭生活

第二章 主材生活行事 自然科學

梗概の説明

九月 十月 十一月

家庭生活

家事の必要な仕事の中、殊に家族の食物の供給に關した事は、秋の日程に非常によい題材を與へる食物の供給に關した仕事と云ふのは、何れも日常親しみ深い事柄で、その動作は單純で目的があり、そして兒童自身の幸福と安寧に深い關係のあるものである。

ベット、ストーブ、箒、桶、人形の如き二三のよく選擇された玩具は家事遊のいとぐちとなる。大きな木片は、ベット、ストーブ、かまどを造るのに使はれ、粘土はパン、お煎餅、菓子類を焼くのに使はれる。年長の兒童は自分達の人形のベットを造るのに種々寢道具の仕度をする。食堂遊には紙のナブキンや皿敷が入用である。のちに説明する胡桃や、莓の類を糸で繋ぎ台せる様な事から、順次發達した意匠が時には皿敷を飾るのに適用される。テーブル道具の配列、又はテーブルに花を位置よくおく様に注意する事は、美術的な心を養へる原になる。

家事に對して兒童の興味を起し、注意を保つ爲に又種々の遊びや仕事に動機をあたへる爲に、室の片隅をしきりして舞臺を造るのもよい。此處には毎日玩具や木で作たものが置いてあり、必要の起る度毎に附屬家具や装具が加へられる。そして家庭内の家族の生活——仕事も娛樂も——が充分に自由に劇化される。教師は會長やお茶に招くことを實際に爲る様に誘導してよい。かういふ事を實際に行へば、勢ひ兒童はバン屋、牛乳屋、雜貨商へ出かけなければならない様になる。穀物其他或る容易に準備し得る食料は、兒童自身買たり料理したり爲る事が出来る。大部分は兒童自身で發展させられ、

又他方には繪畫や會話で補助される。是等の遊びや仕事の多くは、個々の考へ、目的、經驗、經過を兒童の頭に統一的に示す爲に役に立つ、と同時に是等の遊びによつて、經驗といふものを更に進んで統一し組織立ることの刺激になる。

食物の出處

二 食物の出處

買物に店へ出かけるといふ事は、教室の中にお店をつこの店が欲しいと云ふ暗示になり、またそれが第二の計畫となる。そして材木や板切れが組立るのに必要になる。はじめは子供一人々々で小規模に構成し、また後に多勢で大きい建築材料を使つて仕なほす事も出来る。多勢の子供が一度に一緒に遊べる様な大きい店遊びをする爲に、子供達は自分で遊びの爲に材料を選擇したり、形取つたりするのによい經驗を與へられる。其外自分で判断を要する多くの問題を與へられる。材料と方法、劇化其他に關する更に進歩した暗示は次章にあげる。

庭園や畑を興味の中心にする事は、子供の經驗に必要な事である。建物、野原、畑、野生の動物等を表す小規模の箱庭は、野の生活に親しみ深い田園の子供達にとつては、興味多く且つ價値ある遊びの目的である。

雜貨店や、とりつけの店の果物、穀物野菜の實物を使ふ遊び、又家庭で實物を使つて食事の用意や

給仕をする遊びは、食物の製られる順序を明らかにする機会を與へる。ペタを造る事は子供達にも上手に出来る事で、又ジェリーを造る事の手助も出来る。そしてそのペタやジェリーは蓄藏して感謝祭の時に使用する。

三 季節に従つての活動と興味

子供の興味は是等の家庭的な産業的な活動に向けられると同様、季節及季節の特殊な状況にも向けられる。

球根は春先花の咲く様にこの季節に植付けられ、くるみ類や果實又紅葉や落葉は集めたり、又より分けたり、又繋ぎ合せて鎖にしたり、花輪にしたりする。秋の花が咲くと、子供達はそれを室内に飾る。繭を造る毛蟲を見守る事が興味あると云ふ事を強く感じさせる爲に、子供達を外へつれ出して毛蟲を探したり、又毛蟲を飼つて置く準備をしたり手助けさせたりする。

季節に従つての日程の要點は、感謝祭を祝ふ事と其の準備をする事とである。子供達はペタを造る事や、他の保藏方で將來使ふ食料の用意をする仕事を手傳ふ。又市場で多くの野菜や果物を見たり、又自分の家の畑から或野菜をとり入れる。是等の直接経験——それは繪や歌やお話や會話によつて、もつと内容を豊富にされる——は收穫季節の意義を子供に認めさせる事の助けになる。

季節に従つての活動と興味

十二月

クリスマスの準備

十二月

クリスマスの準備

子供達は感謝祭の爲に室内を特別に美しく飾り、又自分達のお母様達の爲に、簡単なお辨當をあげる様に準備をする。パンにはペタやジェリー、それは子供達が手傳つて實際に造たものをつけ、又自分達で拾つたり、割つたりした胡桃の類を入れる器にするのに小さい紙の籠を造る。

幼稚園時代の子供には、此の祭日の歴史的意義は理解出来ないものであるから、それを話す事は間違つてゐる。しかし此の日の社交的意義は、收穫に結び合せて又お友達や家族の人達と良い物をおふくわけする楽しみに結び合せて實事から理解される。その事は此の日の靈的意義の理解——それは長じてから爲得る——の基礎になる。

ハローウキンは子供達が、他の子供達を喜ばす爲の日である。それを機会に幼稚園と初等學年との集會が作られ、學校全體としての社會生活を獎勵する。此の日のお祝ひには、かぼちや提灯や道化小人や鬼等を組合したりして、正しさを失はない程度で、滑稽を演じて楽しいお祭氣分を助長する。

十二月の梗概は、此の月の學校の三週間がクリスマスに關した遊びや、仕事でみちてゐるといふ事を思はせる子供達の此の日に關した連想は、サンタロースと玩具である。クリスマスの前晩のお話は

クリスマス季節の多くの楽しみを喚び起す。そして子供達はお芝居やまねことや材料で、そのお話の部分を実現する機会を充分に與へられる。玩具や玩具店を造る事は、子供達の努力で更に進んだ劇を構成するように誘導する。歌やお話——子供の活動を表してゐる——或は子供の経験から喚び起された心持は、クリスマス全體に亘る経験の價値を強める。「誰が私の玩具を買ふか」といふ歌は詩的な遊戯活動の一つの例證である。「靴屋と小人」のお話は、贈物を作たり思ひがけない喜びや驚きを含んでゐるので、クリスマスを経験に最も關係深いものとせられる。此の祭日の靈的意義は、或場合には第一クリスマスのお話をする事によつて強められる。

是等の幸福な多くの経験のあとで、子供達は彼等の両親への贈物を工夫したり、製作したり爲る事に熱心にとりかゝる。此のクリスマスのお祭は一年中の最も美しいものである。此の時機の子供達の仕事はあまり忙しかつたり、過勞にならない程度で計畫されるべきである。又すべての準備はする事の楽しみと、豫期の喜を伴ふべきである。贈物は丁寧に包まれ、注意深く結ばれたり封じられたりする。奇抜な特別な招待がお祭の爲に子供達で計畫され、實行される、又子供達はクリスマスストーリーを買つて来て剪を入れて枝ぶりを整へる。そして子供達の父母や弟妹が集つて一緒に分ち合ふその最後の日が来る前、五六日間といふものを上なき楽しみとする。

一月、二月、三月

社會生活

一月 二月 三月

一 社會生活

食物、衣類、住宅に關した職業は、互に關係ある家庭と社會の兩方を表示してゐる。しかし家庭生活は各場合に背景をなしてゐて、近隣の種々の産業が家庭や家庭内の家族の種々な需要供給の必要に結びつけられて興味と成るのである。

なほ附加へて望ましい事は、近隣社會その全體に對しての準備と必要を力説する事である。其の近隣と社會には各種の家庭に生活する家族——それは子供達自身によつて代表されてゐる——があるその家々は大小の通に立ち並んで居る。交通が運輸が安全にそして愉快になるやうに街燈、人道の設備がほどこされなければならない。近隣の商業地には、社會の多くの必要を充たす多くの製造場や賣店がある。交番や消防派出所は人民を守るように備へられてゐる。又通信の爲には郵便配達があり、總ての子供の爲には學校があり、各種の家族が禮拜に集る爲に教會がある。

同じ通り或は同じ近隣に一軒づゝの家が立ち並ぶと云ふ事から容易く小社會が成立つて發展して行くのである、是等の小社會は環境の特徴——即ち一軒づゝの家のみか又は一軒づゝの家と家の一劃又は共同住宅——に従つて其小社會自らの特徴を生ずる。

家々が完成すれば社会に必要な其他の建物は自然と暗示せられる。此の小社会の賣店や製造販賣店は展開した窓で區別のつくように成てゐる。人道、街燈郵便ポスト各種の乗物は必要に従て附加へられる。春先一日々々と暖かになるにつれ公園や運動場は殊に興味多く意味深いものに成て来る。

子供達が種々の社会活動から模倣的に想像的にしてゐる。遊びは其の社会の特徴を伴てゐる。それで彼等は賣る事や訪問する事や學校に行く事や教會へ行く事を遊とする又郵便配達、巡查、車ひき等の遊びもする又彼等は消防署に行つて消防夫や消防機械を見る。説明的な繪畫や模倣は是等異つた社会生活の興味ある重要な形象を理解する爲の一の表現である。遊びは簡單で未成であるけれども相互關係や互助といふ事について何事か學びつゝあり、また子供達一人々々がその一部分を成してゐる人生に於て充分に子供流儀を代表してゐる。

是等の主材に含まれた對象的相對的常置の事物と考の表現は數日或は數週間子供の興味と注意を勝ち得る。

季節の興味

二 季節の興味

クリスマス當時は宿り木と常磐木のなくてはならないと云ふ事がひいて他の冬中葉を保つてゐる木への注意をひく事になる。

冬にはもし周囲の情況が好都合になつてゐれば、子供達は雪人形や雪鞋を造る事が出来る、そして雪人形が溶けるといふ事は雪が日光に遇て水に變化する事を示す。日の短かい冬を通じて子供達は床には入る前に見る事の出来る月や星へ注意をひかれる。そして是等の天體に子供らしい興味と感じを言ひ表した詩や歌が一層天體と子供達とを親しみ深くする。

秋植えられた球根は地下室から教室へと持ち出されそこで子供達は種々と必要な世話をしまた植物の成長して行くのを見守る。

ヴァレンティン節の準備と計畫が目的と方法に好い問題を提供する。そして此日はハローウィンと同様學校の各級々の間に社交的氣分を増進させる爲に使はれる。ワシントン誕生記念日は學校の上級生や又一般社会にとつて意義あり興味ある休日である。幼少の子供にはかような社会的な興味はわからないのでわけわからず反射的にたのしむ。彼等はワシントンが國家に對する奉仕の眞價を知るには年少すぎる。しかし彼等はワシントンが偉い軍人であつた事と北米合衆國の一番初めの大統領であつたといふ事の説明で満足する。又幼少の子供達は其日のお祝ひに適當な室の裝飾をしたり、彼等自身の爲に兵隊帽を作たり軍人マーチにつれて旗行列をして歩いたり國歌をうたふのに合せたりまたそれを聞いたたりして此の日を祝ふ。かようにしてジョージワシントンの名の下に愉快な正しい交りが結ばれる。普通用ひられる櫻の木の話の様などんなわかり易い事に依つても、國家的人物といふ事は

幼少の子にとつては大きすぎる。

四月、五月、
六月、
衣類の要求
と供給

四月 五月 六月

一 衣類の要求と供給

食料の供給に關した職業が暗示的玩具を、いとぐちに始められるように、衣類の職業は人形と人形遊びによつて、は入り得る。人形遊びには、本當の衣類の材料で作つた着物を要す人形、或は紙人形、又兩種類の人形も使用されるが兎も角子供の心を強く惹く問題は一である。

最初の必要は材料である。子供達は自分でそれを買ひに行く、次には裁ち方と仕立方である。

衣類を仕立るといふことが再び種々な商店——そこには材料ばかりでなく出来合の服もある——を暗示する周囲の情況と場合に從つて百貨商や當物屋でもよい。

遊びと職業は子供達を織物の多くの種類に接觸させる。或子供にとつては其の興味は、毛や木綿の原料や又原料から織物に轉換する方法の方へ向けられる。之等の方法は、子供の経験が判断出来ない様な題目を幼稚園案の中に屢々含ませる事があるほど教師にとつては非常に興味あるものである。衣類に關する職業は附隨の意義として季節の戶外生活に關係を持つ。主題が春の日程の内である時には木綿の衣服や麥藁帽や日傘や日除帽の必要が強められる。又冬であるならば重い外套、帽子、指無手

社交活動と
興味

袋、手袋や脚絆が準備される必要がある。どちらの場合にも、人の必要を充たす要素として、商人は特に興味あり重要な人である。

二 社交活動と興味

一年中のどの季節よりも一番子供達が戶外に出られる時即ち晩春と初夏を通じて日程の主要なる興味は此の季節に關係ある活動と興味から選ばなければならぬ。

遊園と公園は夏の準備をする。他にも暗示した様に遊園或は小公園は社會生活の興味を目的とした仕事の最後の計畫である。

春先きは、窓ぎはの箱に殖えた球根や蒔いた種に日のあつた結果が注意される。規定に從つて遠足が計畫されそれによつて子供達は草や木の芽や早咲きの野の花に表れる様な新生の兆を發見する。之等に於ける興味が、詩や言語と同様に繪畫や剪紙によつて獎勵される。

鳥が歸て來る事に特別な注意をする事が必要であるとして其の土地特産の鳥を容易に認める事を助ける様に畫く事や會話や繪等で努力される。又子供達は學校の庭に鳥の爲に浴室を造てそれに水を一杯にして置く。戶外の経験は構成の原動力を充たす。麥藁帽子や日除帽子は太陽の暑さ除けの爲に子供達に必要と爲り、花を摘み集める爲に籠が必要になり摘んだ花をいける爲に土の花瓶や鉢が必要

年長児が石彈や獨樂や凧を持って遊ぶ様に小さい子供はそれと同じ玩具又同じ様な種類のものを風車つた晴れた日に持って遊ぶ爲に製る。

自然物 自然現象に附帯した之等の經驗に附加して動物の世話をしたり。保護をしたりする活動が續けられる。幼稚園時代の子供は園藝といふ事をあまり深く爲るには年少すぎる。しかし彼等は或る草花や早く成熟する野菜の種を蒔く機會は持つて居る。種子は子供達に造られたり飾られたりした鉢や壺や函に蒔かれ所有の本能によつて興味を持ちつゞけるようにされる。その上實際の小さい鉢の植物の成長は、比較的離れた運動場に、生えるよりも一層明らかである。

それで春は種子を蒔き秋は球根を植えるといふ事は室の内外共に價值ある事である。五月に植えた大根とチンヤ菜は六月學校が終る頃には收穫される。之等又其他の種子類は秋のはじめに取り集められる。適當な教師の監督の下にある學校所屬の園庭がある場合には幼稚園の子供達は植物を植えたり世話をしたりする手助けが出来る。

その習慣に興味ある動物で我々の學校の教室近くで容易に世話の出来るのは金魚、カナリヤ、鳩、兎と雌鶏と雛鳥である。幼稚園の教師が雛鳥を増やす事に成功したといふ事には多くの實例がある。或學校では母鶏と、かへす卵は教室の中へ持って來られた、そして子供達は樽の中の糞を裏返へして巢を

造り、そこへ卵をならべて、母鶏が巢に就いてゐる間毎日母鶏に餌を與へた。卵がかへる時に子供達の或ものは殻から出て來る可愛い雛を實際に見る。或る朝子供達は殻の中の雛がピー／＼いふのを聞いた、全部がかへつてから子供達は大きな木片で遊び場を造る。母鶏と雛鳥は數週間教室の中に置かれ子供達はそれに必要な世話をする。その後外のとやに入れられる。やがて母鶏は又卵を生む。それ等は其の年の閉會のお集りの時に子供達が彼等のお母さん達に、チンヤ菜や卵のサンドウキツチや大根で御馳走をする時に使はれる、その大根やチンヤ菜は子供達が自分の庭から取りあつめたものである。

かように二三の動物の生活の形式を親しく知らせる機會は子供達にとつて單に數多くの種々の動物を紹介するよりも大切な事である——勿論種類や數の必要も忘つてはならないが——。

メイデイ、イースターの如き季節の祭禮は特種な風潮として認められるべきである。春のはじめにイースターが來て以來それに就いての連想は、新生といふ事である。此の季節は期待の季節である。

メイデイは、聖バレンティンの様に、おどろかせる時である。其の日は近隣の人達や友達を樂ませる爲に祝はるべきである。お隣の戸口に花籠をさけるといふ古來の習慣は永續させてよい習慣の一つである。その爲に教室の戸口にも他の家の戸口と同じ様にされる。

効果

効果

効果は學期に於ける日程の種々の活動——手工、言語、繪畫、遠足等——によつて廣く實現されてゐるので之等の種々の活動から切り離して説明する事は、漠然とした言葉以外には困難な事である。次に概説せらるゝ様な一年の仕事は子供に對する價値に基かねばならぬ。

態度、興味、趣味

1、態度、興味、趣味

之等の自然環境及社會の形勢に於てもつと廣く、もつと知識的な興味は要目の内容に含まれて居る。新しい經驗に對する熱心な受身の態度は、新しい興味の發展を結果として來す。

習慣、熟練

2、習慣、熟練

經驗を説明し或は組織立てる爲の能力を増進した事。自己を社會の狀態に適合させる能力を増進した事。述べられた思想と實行の連續に集中する能力に依て示された注意力の増進した事。

學識、斷片的な智識

3、學識、斷片的な智識

家庭、近隣の活動及注意される自然物と自然現象に關した重要な資料。之等の活動の或物に含まれた道德價値と社會關係の實現。

製作

第三章 製作

材料を以て試みようとする衝動は幼年初期時代の最も強い衝動である。其の衝動は初めは、材料や目的物をなぐさみに弄ぶといふ形で表現される。各材料が其の性質に従つて暗示を與へるので子供達はその依て各々の特別な物や材料に就いての更に進歩した可能性や特質を發見する。子供達はまもなく、自分の考を發表し、目的物を造る爲に材料を使用しはじめる。

一般標的

一般標的

環境を支配する事から來る力の感じを鼓舞する爲め。目的に向ての根氣と豊富な工夫と能力とを増進する爲め。

周囲を支配する方法及び理解の方法と經過を與へる爲め。

特種標的

特種標的

材料を試る事に依て子供の實驗しようとする希みを満足させ、かくして彼等の所有物に親しみます爲。

第三章 製作

藝術、工業の初歩へと、子供達を助け進ませる。

共同の目的の爲に他人と共に事をする能力を増す爲。

主題

主題

よく選ばれた種々の玩具や遊び材料を家庭で持つてゐる四歳位の子供は、幼稚園の材料を家庭で持つてゐる四歳位の子供は、幼稚園の材料を大層早く用ゐはじめる——模倣的な遊び或は構成的な遊びで——不幸な位置に居た子供達は不充分であつた遊びと構成的な本能を奨励する爲に多くの暗示的玩具を要する。例へば前者に屬する家庭から來る子供は殆ど直ぐに學校内の木片で自分の爲に又は人形の爲に、椅子やベッドを造る事に興味をもつが、後者に屬する家庭の子供は人形、おもちゃのベッド、椅子等を持つて遊びをする時を要する以上に暗示した様に木片で實驗する時を要す。

多くの子供の、材料を用ひての自然な構成的遊びは彼等が周囲の成人の活動を模倣したり、再現したりする試みの結果である。下に記載した玩具は、幼稚園の子供にとつて創造の價値あるものとせられた、社交的位置を暗示し家庭や近隣の活動を代表する遊びへと導き、構成に自然な子供らしい働きを與へるように基礎づけられたものである。

玩具

玩具

大小の人形。人形の家具。おもちゃの家。おもちゃの動物。おもちゃの器具。

大小の人形は直に子供の心を惹き又は非満足されなければならぬ人類家族の各員を代表する。一年を通じての多くの問題は人形に、家や家具や車や、汽車やステーションや衣類、食物の準備をするといふ事から生じて來る。子供達が人形の家族の必要を充たさうと準備する時に、それと同じ様な必要に彼等自身の家事の人達がした方法を、更に明確に意識する様になる。若し子供達が家を造たり衣服を拵へたりその他種々の事をする爲に各自小さい人形を持つて居れば仕事と遊びは目的のあるものとなり又趣味深いものとなる。

人形の家具、ベッド、椅子、テーブル、箆筒、戸棚、車は、木工の處で説明した様に子供達で造る事が出来る。舞臺は室の一隅を使って窓や蝶つがひのある戸の附いた、ついたでしきりをすれば出来る。之は装置の必要な部分といふのではないが構成や家事遊に大層よい動機を造る。

おもちゃの器具は家庭生活に關した遊びを奨励し、子供に構成といふことについての考を暗示する。おもちゃの動物は家、かこひ、食物其の他のものの必要を暗示し、かくして遊びをする爲に材料と構成の力を供給する。

構成の材料

構成の材料

積木、砂場、粘土、紙、織る爲の織物、縫ふ爲の織物、木材、雑多な材料。

積木は、フレイベル積木の擴大したもの——形も割合もフレイベル積木と同じで六倍の大きさにした床上積木——と、これらと連絡する種々な形の板片とから成立つてもよろしく、或はヒル氏の床上積木と板とは、木工場か学校の手工部で造られる。それには樫或は他の質の堅い木材を使用すべきである。

之等の材料を持てする多くの構成は、小供達がもつと自由に、もつと大きい筋肉を使って遊ぶ爲めに、床の上でする。毛は清潔にして置かなければならない、そして子供達には各自に小さい全皮か藁ごさを用意して置くべきである。子供達が必要を感じる時には床上積木と共に板を興へたり又、フレイベル積木の屋根にする爲にボール紙を興へたりする事が出来る。最初子供達は自由に材料を使つて、何が出来るかを自分で発見しながら實驗する。子供達は材料の可能性を発見した事から導かれて、まもなく自分自身で題材をとらへるようになる。たとへば、塔を造る爲に積木を積み、或は人道をならべ或は家や汽車の車を構成する如き。そして彼等の構成は現在の興味又は過去の経験と同程度のものである。一人の子供が正方形と長方形の角柱で丸や階段を、丁度自分の家と同じ様に造れば、二番目

積木の構成物の計畫の或

の子供は、一昨夕方散歩して食事をした事のある並木の中のベンチや長テーブルを造る。幼稚園の形やお皿で創造された社會状態は、椅子やテーブル、ストーブ寝具其他の物を造る積木の用法を呼び起し、五六日も續くことがある家事遊は發展し改善せられて、子供が必要を感じる毎に掃木やナブキン、テーブルカケ、寝具の様な方面に装具が附加へられる。時には各々の子供は自分の方法で自分の考を實現する様に積み、再び二人或は四五人の子供が積木を連合し自發的に協力して提案を解決し、同時に一群の子供は、教師の誘導から或は彼等自身で選擇した更に大きい社會的の計畫を解決する爲に協力する。教師が彼女の日程の中で特に力を用ひ様と思つた問題の中のどれにでも子供の興味が生じたといふ事を見たら、すべての子供達の興味がそこへ集注するようにさせる。たとへば數人の子供が家事遊びに興味を持たうとすると、教師は構成に更に強い動機を興へる爲に、そして場面を一層眞實に又興味深くする爲に、ついたてでしきつたお家を持ち出して来る。さうすれば教師は遊びを進展させる爲の問題を指示する事が出来る。

積木の構成の計畫の或物——雑貨店を建てたり、室の一隅のお家に家具を裝置したりする事——は、日程の主題から起る。

雑貨店は、初め個々の計畫として造られる。各児がフレイベル積木で帳場や棚——大小の珠の塔で表はされた果物や野菜の罐やジェリーのガラスの入れ物を添へた——を造る。他の材料で構成せられ

た物も装置を完全にする爲に同じ様に添へ物をする。個々の仕事がすんで後に群になつた子供達は、多勢の子供達が一度に來ても充分な丈の大きさの店を造るのに各自の努力を協力する、——大きい積木と板を帳場と棚に圓筒を野菜や果物の罐に使つて——遊びが進行した時に、そして子供達が必要を發見した時に他の材料は積木と共に用ひられる。實物の果物や野菜葡萄が用ひられてもよい、或は粘土の果物や野菜が造られ、彩色され、そして箱や籠が之等の入れ物として構成される。貨幣が造られそれを入れる紙入や物品の受渡の車が造られる。クリスマス季節が近づくと雜貨店は玩具店に變り自分達で造た雑多な玩具で子供達によつて飾りつけられる。春には、新しい衣服の必要が、百貨店や呉服店の装置建築へと導く。其他の計畫は、ひよこの家や小舎、穴倉や農家の如き農園の建物を構成したり、垣根を造たりして、農園を造り出す事である。子供達が、彼等の食物の起原に興味を持つと同時に、出來得るなら農園へ遠足をする。農園の経験を、出來る丈價值あり、又樂しきものとして朝は、ひよこに、餌をやつたり又枯草の中で遊ぶ事に費される。その翌日幼稚園では玩具の動物が持ち出されて子供達は彼等の積木で動物の爲に、特別の小舎や水桶や納屋の庭を造り、野原や畑や牧場が造り出され、そして垣根が出来る、かようにして漸次この、小農園は砂箱の中で或は室の一隅で發展して行く。此處でも雜貨店の時と同様に計畫を完全にする爲に、他の材料が積木と組み合される。若し農園への遠足が出來ず、そして農園訪問が各自の子供の経験の部分にならないならば、この問題に就て

費される時間はやゝ少くない。そして單に之等の農園の狀況が、子供の経験に最も親しく最も興味ある様に見える製作でのみ表される。たとへば雜貨店に農産物を運ぶのに彼等が見る積荷車の構成や玩具の動物の小舎を建てる事や又玩具の動物に餌をやる事や水をやる如き。

代表的の建築と、社會でよく知られてゐる建物——それらは子供達の家庭に貢獻する處ある故に、子供達にとつて興味あり意味深きものである、最初に、家々は子供各自が住まつてゐる家、或は親しい家と同じ様に建てられる。之等の個々の家々は、後に街路に添うて排置される、そして人道や馬車、街燈やポストが之等の家々と連絡する爲に又其の家々の役に立つ爲に用意される。子供達が最も親しみある代表的賣店は實業区域内に建てられてゐる。馬車、荷車、自動車は運搬の爲に構成^{くみたま}られる。之等に次いで、學校や寺院や郵便局や圖書館や消防署、汽車のステーション等の如き親しみ深い公共建築物は特にな形で建てられる、かようにして室の一隅に小社會が漸次發展して行く。

形式的の仕事は此の材料ではされない。それは大體が、此の時代の子供の興味をひく處の物の用途、と目的、資質と作用とである爲に。材料で作る、といふ事には數學的の價值がある。そして子供の取扱う種々の経験から、後の爲に形や大きさや數の辨別及部分の排列の基礎を作る。然し教師は材料の外観を強ひてはならない、が子供が自發的に或教學の價値に到達した場合には、いつでも教師はその必要を滿たす。幼ない子供には例外であるこの數學的興味に加へて形、大きさ、數、排列が、子供自

身で仕始めた計畫を實現する爲に意識的の要素となつて來る時に、子供は自然に數學的價値の或知識を得る。たとへば若し建築に、長方形の角柱を使ひ盡したとして、そしてつと子供が要求した時には、教師は、子供の前にある、長方形の角柱を造り得る積木を指示してもよい。この積木の必要から、子供は二つの長い方形の角柱、或は二つの短かい方形の角柱が長方形の角柱と同様に排置されるといふ事を發見する事に興味を持つ。

砂場

砂場 そこには貝殻や礫や錫や御影石のお皿等のある——は、裝置の價値ある項目である。子供達は、最初たゞいたり、積み上げたり、飾たり、掘たり、かきまぜしたりして、砂場の中で山を造たり穴やトンネル、川や井戸やお菓子やお料理を作たりして、自分自身の遊びを實驗する。後に子供達が協力する事に興味を持つ様になつた時に、砂場に、集團的な問題が提出される。野原や畑、建物のある農園、學校の運動場、公園、家庭、園、自動車置庫、我等の街路或は、我等の町か近所の代表的の建物、は日程の主題によつて提出された問題であつて、砂場で解決される。

紙又は積木で造る構成 人や動物は紙で剪り或は土でこね、木は小枝又は紙で表はされる。其仕組みは簡單で、子供に案出され、子供に實行せられる。教師は彼女の子供に對する質問で、子供が仕組みを考へたり組織立てたりする事を助ける。しかし、仕事をする、といふは教師よりも、子供自身に着目したことの結果である。

紙又は積木
で造る構成

粘土

粘土 は、その可塑性と、子供の爲るがまゝに成るといふ事の爲に、多種の形を型造るのに工合よく用ひられる。實驗的遊び——ごく初めは、たゞいたり、まるめたり、つまんだり、穴を造つたりする——は、子供の最初の無目的な手はじめ(材料を持てする)から、意識的に自分の考を實現する(「菓子、皿、人形、毬を造る事で」)ように發展して行く或る提案から實現される。十分要目に連絡を持つ、粘土製作の少數をあげれば次の様である。

焼く爲のパン、菓子、パイ。お皿や、お料理をする什器。

農園の運ぶ車の爲の果物や野菜。それは造られて彩色されたもの。

雑貨店や感謝祭のテーブル。玩具店のクリスマス玩具。或はサンタクロースがストーブの側に置いて行く爲の玩具。燭臺や、クリスマスの贈物を父母にあげるのに用ふ紙で造たエナメルで塗た計量器。彩色をしシエレクで上塗りをして春、種を蒔くのに使ふ爲の花鉢や花壺。鳥の巢と鳥。木當の遊びに使ふ爲にシエレクで塗り彩色した石彈。粘土は屢々お話の挿繪として使はれるたとへば三匹の熊の如き。構成の紙は、その使用をは、かどらせる可能性の爲に、幼稚園の材料の中で最も價値あるもの、一つである。紙は丈夫でしなやかで良い色でなければならぬ、そして提出される計畫は簡單で子供の興味と伴はなければならぬ。

構成に著手する前に鈹の管理を仕なければならぬ。初めの切り方はお人形の枕へ詰めるのに使ふ小

さい切れぐを造る事である。それから、お家の敷皮やテーブルかけの爲に紙が房の様切られる、又寝具や敷皮が剪られ又ナプキンが剪られて、お家に使ふのに摺まれる。この時子供達は、雑誌から畫を線通りに上手に切りとる爲に充分缺を管理しなければならない。この事が、スグラップックを要し、引つゞきペーヂを折たり本のカバーを造つたりする。

次の問題は、庭から種を集める爲に籠を作る事である、又、焼く爲にお鍋を、雑貨店の爲に箱や籠や、袋を、提灯、山羊の角で造た裝飾物、クリスマストリーの爲のベル、玩具店の玩具。ヴァレンティンの封筒、春に使ふ扇、花輪花火、扇、洋傘、紙人形とその衣服戸棚又衣服を入れるトランクやそろつた箱、人形の家の爲の揃た家具、或は子供達が各自で充分家具を備へ付けて箱に造た一室のお家の爲の揃た家具を造る。紙の構成は積木の代りに砂場、或はテーブル又床の上に、農園、市街——それらは運搬車、馬車、自動車、垣等と同様に家や小舎や店や寺院、其の他の公共建築を呼び起す——を表現するのに用ひられる。

本や籠、箱、提灯、人形の著作、敷皮の如く提出された多くの問題は、適應した工夫の爲に特別な機會を與へる。

紙の構成に伴ふ法式は他の材料に用ひられたのと同様である。最初の第一歩は實驗である。考と問題がこの實驗から成長し子供達は彼等の出来上つた結果をためして見た時、或は友達や教師のすゝめ

籠を作る事

織る爲めの織物

に従つた時にそれを改良する。次に教師は——常に必ず子供自身の考と進歩の程度に應じるといふ事を顧慮しながら——子供達がもつと進歩した形を造る様にと補助する。

織る爲の織物や型としては、ボール紙か木で出来た機織機械——それは年長兒によつて造られる——、絲績ぎ、八本よりの絲、麻、木綿——それは子供が教師か家から持つて来て容易に染料で美しい目立つ色に染めて幅廣な小巾に切る——がある。子供達は彼等の機織機械を木やボール紙で造り、容易に經をかける。織の爲の適當な問題は、人形の家の敷皮や、人形のハンモックやマフや帽子である。紙の敷皮を造る事の困難と不十分な出来上り——それは材料の弱い爲に生じる——はもつと實際的な本當の織物に近い製法で、もつともちのよい材料を與へれば問題にはならぬ。之等實際的材料は單に子供達が、より容易く製造し得るのみでなく、その出来上つた結果が彼等の遊びの生活に役に立つ爲に、更に大なる價值あるものと見られる。しかし出来上つた結果を良くする爲に造る手間が長くかかるのと又その方法に正確を要すといふ事から、實際的に織物をするといふ事は或定限内の仕事であつて、しかもそれは年長の子供に用ひらるべきである。

縫ふ爲めの織物としては、

■木綿、毛織、或種の羅紗、ガス、太絲、大きな針がある。

カードを縫ふといふ事は多くの幼稚園で棄却されてゐる。子供が自分の考を表す爲には、それよりもつと充分塑造的な媒介物があると考へられてゐる。しかし、組み合わせた紙を縫ふといふ事は、子

縫ふ爲めの織物として

供が使ふ物品——たとへば、お店こつこの時の紙入や郵便配達の靴等の如き、——の供給に屢々採用せられる。簡単な半返し縫ひ方が用ひられる。縫ふ事も亦、織る事と同様制限せられた範圍内である。といふ理由は、幼稚園の子供にとつて、興味ある事ではあるが、一層緻密な筋肉を働かせる事になるからである。材料は、危険のない大さで粗末なものでなければならぬ、幼稚園の人の要求は、最も自然で興味ある活動を持ち来す。毛織の著物、肩かけ、寝具が用意されなければならぬ、これでは冬の仕度が出来ぬ。又春には木綿の著物や日よけ帽が要求せられる。子供達は屢々自分の著物の切れ端しを、家から持て来る事が出来る。著物を造る事の最初の試は、純然たる實驗から得るものである。材料が小さい形に切られ、人形の著物は屢々、あらい大きな針目で縫はれる。その結果は比較され、教師や子供達によつて評議される、そしてより善い形を見分ける力が發達するので、出来上りを追々改良する様に、他の試が引續いて起る。それで子供達が簡単な二本縫目の著物を造るのにちぎ、型紙が必要になる。

縫ふ事は、織る事と同様、年長の子供にとつては價值ある仕事である。

構成の木材としては、木質の柔かい種々な木材、種々な大きさや形に切た木片、針、膠、槌、鋸、がある。最初に子供達は、種々な板の片を使って道具で實驗する。屢々子供達は、之等の製法を自在にし得る或程度に達するまでは、單に切たり、たゞいたりする事で満足する。それから彼等は、簡單

構成の木材
としては

目的物

な物を——それは木片の形によつて屢々指示さるゝ事がある——造る爲に木片を集めはじめ。次に材料に、目的物——それは、其時代の子供に興味あるもの——を造るのに適當な大きさに切られて箱に入れられる。子供達の問題は、彼等の個々の目的に最もよく適する木片を選んで合せたり、釘付けにしたりする事である。時々子供達は彼等の必要に合ふように板を量つたり、見たりする。注意すべき事は、木材としては、白松やシナの木の様な柔い質を選ぶ事と、木片は容易に割り得る様な薄さにすべき事である。

要目は、この材料で解決されるに適當な或問題を提出する。それは、大きい人形の爲の簡單な家具、又木箱を使って子供達が自分で造た人形の家の爲の小さい家具、人形の車、農園又は雜貨店の車、クリスマスの玩具店の玩具、小公園や遊園の裝置、鳥小舎、苗床である。之等のものゝ多くは子供達に染められたり塗られたりする。出来上りは粗雑ではあるが、然し充分に堅牢なやうに造る。

種々な形の木や、板紙の箱、絲巻き、皺にした紙、ミルク壺の栓、等の雜多な材料は、家遊びや店遊びの構成に、又玩具や必要品の爲に、誘導的な安價な物品を提供する。此の材料を持つての仕事が、子供達を工夫に富ませ、家を構成するのに種々な材料を用ひる様に促す。他のすべての材料に於けると同様、此處にも教師は、造られる處の物は簡單な粗雑な物である事を承認せねばならぬ。仕事を持ち來す教育的價値の標準は完全な物の中にはない。子供が獨立して仕事をしたり考へたりする時に得る

力の中にある。教師は自分の野心を成就させようとする爲めに、あまり子供を助けるといふ事のない様に警戒しなければならぬ。

補充材料

補充材料

大きい、種々な長さの棒、珠數玉、大きなボール紙。大きい棒は、まれに畫を造る時に用ふ。子供が自分の周囲の物に就いて自分の考を表發し得るのに、よりよい媒介物は塑造や畫く事によつて更に多くなる。然し棒は、積木や他の材料と混合してする構成の遊びに有用である。たとへば馬車の軌道を造たり、人道を造たり街燈の杭や垣を造るのに、大きな珠で構成たりする等の如き。又或時はコーヒの實や他の大きな種を模様のように連ぎ合せる事もする。——構成られたある物の飾の爲めの設計準備として、——子供達は人形の家の、壁紙や、敷皮、テーブルかけや木や他の興味あるものゝ爲に材料やクレイヨンやペンキであるの一番よい模様や列べ方を實驗してみる。

球の形をした珠數、正方形、一インチの直径で一インチ半の圓筒とが材料の中に含まれる。

幼ない子供に特に適する、球を繋ぐ事が初めに實驗されてその子供達の實驗から簡單な排列が生じ、一步一步と教師や子供達の評にあふ毎に種々な組立の型やリズムミツクな排列へと導かれて行く。自然材料——赤いさんざしの實や、番薯の實、苺類、橙の實等も繋がる。或時は繩や、からの燈心草を

第四章 藝術

短く切たのにつなく。

大きなボール紙は實驗的活動を呼び起し、常に或種類の組み合わせへと誘導する。子供達は屢々場面を一色の釘でうづめ、垣で囲まれた牧場の爲に玩具の動物を要求する。或は子供達は釘を花として立てて庭を造り或は考を發表する代りに、單に彼等の美の感じを満足させるリズムミツクな配列をする事もある。釘は球と同様、子供の色に就いての喜をみたす材料であつて、種々な配列の機會をあたへる。

子供が先天的に表現の要求を持つてゐるといふ事を證明するには、たゞ彼等に、繪具やクレイヨン紙或は粘土を與へさへすれば充分である。その粗雑な結果が表はされた時第三者は彼等に「創造的想像」を發展せしむる必要はないと感じてであらふ。しかし、なぐりがきや剪る事や塗たり搦いたりする事は、子供自身の實驗による方法と他兒や教師の暗示によつて進歩した技術に變る。表象的な表現は子供の環境の事物にますます似て來る。しかし子供の技術を進歩せしめ——自發的表現を失はずに又獨創と新奇を失はずに、——その作品を實物に似させることは慎重の取扱を要する仕事である。或教育家は「放任せよ」と云ひそして藝術の訓練に於ては子供は自己救済を爲得るといふ事を明言して

一般目的

ある。此の見解は極端であらふが、技術にあまり重きを置き過ると創造的想像力の翼を刈り取り明瞭な觀念の表現にあまり重きを置きすぎると表現の慾求を止めると云ふ事は記憶すべきである。子供が活動するには「彼の心中の喜の爲に、彼自身の運命に」時期があるに違ひない。

一般目的

表現の希望を充たす爲に、そして創造的想像を發展させる爲に。
色と配列の感じを發展せしむる爲に。

思考を明かにする爲に。

子供に自然の美を見得る爲に又藝術品の美を見得る爲に、そして藝術と云ふ媒介物を通して新しい見地から彼自身を表現する様に試る爲に。

特種目的

特種目的

材料を更によく扱ふ爲に。

事物を一層明確に見る爲にそして考を一層明かに表す爲に。

色彩と配列を一層意識的に用ふる爲に。

主題

主題

1、子供の對自然及人の經驗は表現の爲に 幼稚園要目の中にある様な——多くの主題を提出する。此の表現は祭禮執行の爲にある美的の形になる。

a 自然、果實、花、果物、日、月、動物、各季節の子供の遊び。

b 工業と作業、家族、それ等と關係ある物——家具等の如き、——各職業従業者の活動。

2、ハロウウキン、クリスマス、ワシントン誕生日 イーヌター、メイデーの祭禮は、その室内裝飾にリズムカルな配列を提出する。クリスマスカード、イースターカードやヴェランテンのや又、宴會の招待狀を飾たり、作たりする事は藝術的の仕事に多くの動機を與へる。此の様な仕事の配列單位の準備として、子供達に模範を與へる時には、模範を選ぶのに教師が明確な藝術標準を持つにあらざれば、又其單位が種々な配列に或る機會を供給するにあらざれば藝術の價値は無い。でなければ子供達は此の仕事を自己表現の手段として用ひる事は出来ない。

3、クレイヨン畫及水彩畫 剪り紙、タイプライターで書いたお話や詩——幼稚園の子供の自作のもの——を集めた本が一年中かゝつて作り出される。はじめに畫が作られてから言語が畫を説明してもよいし又その反對に言語が先でその後で圖解してもよい。次の詩は幼稚園の子供作例である。

お月様が日本のクリスマスストーリーを見てゐる

農夫の育てた三個のカボチャが竝んでる

メリーは莓をたべてフェアリーになつた

此の本は園藝、農事の本、サンタクロースの本、母の仕事或は家事の本といふ様に、日程の摘要として役に立つ。又此の本の内容は言語と書き方の價值ある相互關係に機會を與へる、表紙を飾る事は圖案をするといふ事の動機となり、本をまとめて作るといふ事は工業的の仕事を提供する。

4、人形の家に家具を配列したり 紙人形に着物を着せる事は製作の章で指示した様に多くの藝術目的を持てゐる。

5、お話や詩は作品により暗示を與へる しかし幼稚園の子達は自由に使はない様な物より想像的な繪に畫くものと豫期してはならない、又あまり多く觀念の關係を要するような仕組みを表すものと期待してはならない。たとへば「三匹の豚」の話は二種の動物の繪を畫くことゝ異つた種類の材料で建てた三つの家を建てる事と、攪亂器、林檎園等を要求し、各挿話が物語の頂點に達す處に筋が仕込まれてゐる。ある簡単な歌或は詩は圖解するのによい。たとへばハムプティバムティは(づんぐりむつくりした道化)大層畫きやすい、といふのはそれは丁度子供が畫く人の形によく似てゐるからそれと總ての子供の先生達が親しみ深い人の形に似てゐるから。

遠足の如き直接經驗は作品の爲によい材料を供給する。子供達は幾度も衆の中にそびえてゐる教師と一處に長い列を作てゐる自分達の繪を畫く。遠足の目的地はこゝに略す。消防機械であらうと藝術博物館であらふとかまわぬ、社會的經驗が最も深い印象を與へるのである、然し要するに之は眞の藝術であり、生々とした經驗の繪畫的表現である。幼稚園要目に於ては材料を取扱ふ事や考を發表する事についての子供の興味から技術の部分丈を離して増すといふ必要はない。仕事は常に動機を伴はなければならない。「棒さし」のような色で角形を充たす様な事は價值がない。

一般目的に關した方法

表現の望を充す爲に創造的想像を發展させる爲に自由發表の機會——紙、鉄、繪具、クレイヨン、粘土とする——が與へらるべきである。子供の最初の發表は觀念によつてであつて、實物によつてではない。それにつきジョンデウエーは曰く、

「物を畫くにも子供は彼の想像から畫くのであつて物そのものではない、子供が發表する想像を、生かし自由に爲得る様になると其の時又原の形に歸て来る。或意味に於ては此の時代には技術といふものはない然し技術に相應した心理的要素がある——即ち運動的表現が明白な心象の刺戟と相並ぶか若しくは之に支配される——之が訓練によつて本來の技術と呼ぶる處のものになる。最初の

思考は「爲る事」即ち使用である、使用の後に方法が来る、「如何に爲るか」といふ方法が。扱方はそれ自身の爲に成立するのではない。よりよい自己發表の爲に、そしてつと興味あり充實した「爲る事」の爲に、従て次の二點が生ずる、技術は自由な想像的發表から生じなければならぬ。そしてそれは内部から成長してかような想像的發表とならねばならぬ。」と。

色及配列に就いての感じを進展せしむる爲に。

1、色 子供の色を好む事を満足させるには彼自身を發表する色の材料を與へればよい。クレイ、ヨン水彩畫具と色紙、幼稚園では色鉛筆よりクレイヨンを使ふ方がよいと云ふのは彼等は色の感じを充たすと同時に鉛筆よりも幅廣な柔かい線を與へるからである。色の配合は未成であらふとも子供の最初の發表は自由であるべきだ。子供の華麗な色を好む心を或程度に充す迄は、進歩した美的な彩色とか色合かは與へられない。子供は屢々野蠻的な配合をする事があるそれは原始的藝術と同様に無意識的に美しい。かような結果が偶然に起るが教師の選擇と獎勵によつて彼等はもつと意識的に基礎を形造られる。子供が材料道具になれるに從て教師は調和のよい色合の背景を與へたり或は屢々色の選擇を限定したりしてその結果を誘導すべきである。

2、配列 子供の自由製作に於て多くの無意識的な配列の例をみる。例之は子供は背景をそのまゝ畫く代りに紙の上に月や星の連續を作る。此の配列に於ける興味は幼稚園の室の裝飾を工夫する事

色

配列

又バスケットやお皿、紙人形の着物等を飾る事——それ等は工夫に大層誘導的な型を與へる——發展させられ又もつと智的にさせられる。

材料の使用は——それは自然に單位を繰り返し或は圖示といふよりも整然とした配列に導く處の——棒さしや、球つなぎ、自然物つなぎ等の如きもので總ての考案の興味を進展せしめる。考を明かにする爲め。

一般に、發表は觀念を具體化して思考を明かにするものである。然し若し教師が兒童の達する結果を價值あるものと認めないならばそして又仕事の動機を與へる事に失敗するならば結果の性質効果は増進せず悪くなる。教師は幼稚園の製作品の陳列とか他の幼稚園の訪問とか云ふ事の結果思ひついた様な結果をあまりに屢々子供の考案として課する。これらの結果はそれらの結果にそれ自身には何の價值もない、たゞ之に携た群には缺くべからざる重要な問題の遂行を表してゐるものであるから、其處にのみ多少の價值があるのである。仕事に動機のあるといふ事はその發表を知的に成長させる。「何」「如何」と云ふ問題は子供の實驗にたえず起て来る事であつて、それは教師によつて明かにせしめらるべきである。材料を使用しはじめる時の特徴である本能的な活動は變化して明確な思考作用を營む活動となる。「教師の模倣」——それは幼稚園や小學校に於てあまりに屢々用ひられすぎた——は、教師が教へた結果をたゞ機械的に子供に繰り返へさせるだけで、自分自身の方法を考へさせな。

此の自分で自分の方法を考へることが、すべての發表の主要價値の一である。

3、鑑賞の進歩 活動は智識への子供の鍵である。描む事が出来る故に子供は花を好む。然し子供が花の美しい色を表現する様になると繪を畫くといふ活動は、對象に對する新しい態度を子供に與へる。子供自身の計畫なるが故に生ずる所の作品に對する興味は、作品の對象である物に就いての興味を引き起し、斯くして子供の態度を一層智的ならしめ、これが次の努力の基礎となる。経験を具體化するといふこの事が、子供に他の人の繪をより興味深いものとする。これが繪畫鑑賞への一歩である。

特殊目的に關しての方法

構成材料の扱ひ方の熟練

どの材料でも最初の興味は手で扱へる事である。その結果は第二である。前にも述べた様に、なぐり書きは、しつかりした線や色を平に塗る事へと進歩し、塗つたり擦つたりする事が進歩し水彩を用ふる様になる。子供が實驗の時期を過ぎ、そして技巧が進歩すると、彼等は自分の作品や他の同種の作品を批判する様になる。或子供は繪に畫いた水を見て「これは髪の毛の塊の様だ」と云つた。線がもつと平行に畫かれさうなものと思つたからである。子供が畫く時には無線描法を用ひないで、

特殊目的に關しての方法
構成材料の扱ひ方の熟練

團體的な製作を教へる場合には

彼等は本能的に線で畫く様である。しかし色の塗抹は技巧を増すから、線畫と相關係して無線畫が暗示されて來る。たとへばボートは輪廓を畫くが、水は一面に塗抹する。兵隊や水兵はちやんと畫かないで棒の様に畫くのも出来るが、扱て軍服を畫くとなると充分な滑らかな書き方の必要が起る。作畫を集めた本は使用した色彩の各個で裝飾した表紙を付けてもよい。

團體的な製作を教へる場合には

子供達は、年齢とか幼稚園に長く居たとかいふ事に依つてなく、彼等が一定の材料を使用し得る能力によつて區別されなければならない。かくしてまだ實驗の時代にある子供達が、極めて自由に材料の實驗をしてゐる一方では、進んだ表現の形式を欲したり、或は同一の事を繰り返さうとする傾向のある子供達も、訓練の利益を受けて行く事が出来る。

物を一層明瞭に見る爲に、又考を明確に表す爲に、多くの幼稚園時代の子供達は、まだ實物寫生をする程發達してゐないから、最初は先づ物を想像的に表現する段階から出發しなければならぬ。しかし幼稚園幼児にも、可成進んだ程度で實物を精密に細部を把へて畫き得るものもある。彼等は國旗をよく視てその正確な色、地色と旗竿の正しい關係、地と縞との正しい關係を畫き表す事が出来る。この様な發達の程度にある子供は、多少割合の觀念を以て時計を畫く。そして小さい子供達がする様に單に印をつける代りに、時計の盤面の周圍を多少具體的に象つて其の早熟能力を示す。かういふ風な畫き方は書き方の能力と何か關係があるらしい。それは又用器畫と靜物畫のはじめである。然しこれ

を以て想像畫の代りとしては決してならない。幼稚園要目の中には、汽車や家を畫くような、斯る表現の形式を助成する題目があるから、春には、猫柳の枝や野の花や子供達の植えた。ヒヤシンスを、形や色を正す事を考慮して、描かせる事が出来る。しかし子供達が畫くのに、小枝を無差別に見、地面から花を生やし、花や莖をかくのに赤と緑を無差別に使ふ時には、彼等はまだ物を寫生する期ではない。一群の子供に教師が、ピタスウキートの小枝をよく見せて畫く様に與へた時、彼等は單に實を畫くものと思つて、點や線の種々な配列を作り上げ、それは非常に裝飾的な、しかし單に實を表して居る丈で實際のものと少しも似てゐなかつた。

意識的に色や配列を用ふ爲に

前章に提出した様に、仕事をもつと考へてする様に動機を與へる事、たとへば小さい子供達は、選擇とか配列とかを少しも考へないので、一頁の上へあらゆる物を撒き散らす。一頁毎に畫をかけた本を作る事は考と配列を秩序正しくする。要目の主題に依て考が一層明瞭にされた時には、子供の作品も斯る性質を反映し、教師が力を入れる點が、一つの繪畫に含まれてゐる事物の相互關係に表はれて来る。

題材が圖解といふよりも、裝飾的である場合には、裝飾される者が其れに適當な色彩と意匠を規定する、たとへばハローウキンの祭には、オレンジ色やこげ茶色、クリスマス期には緑と赤が、お皿と

意識的に色
や配列を用
ふ爲に

効果

態度、興味、嗜好

習慣、技巧

智識

かバスケットとか、其他祭禮に關係する物に適用される。人形の家は壁紙や敷物に適應する色や模様
の調和の關係に大そうよい題材を提出する。

効果

1、態度、興味、嗜好

圖畫藝術の媒を通して、觀念と情緒とを表はさうとする熱心と悦び、繪畫に對する一層智的な興味。

色、形、配列に對する感じ。

2、習慣、技巧

材料使用に於ての順序正しき習慣。
或程度の技巧で藝術の材料を使ひ得る能力。

3、智識

他人へ思想を發表する形式の觀念。

藝術の材料に依て、考を表現する爲に生ずる要目の主題についての更に明確なる觀念。

言語

第五章 言語

言語の中には、一民族の文化的富が蓄へられて、子供達が其前時代の富を繼承ぐ力を與へる處の或る實際的經驗の鍵を見出した時に開かれる様になつてゐるのである。言語は象徴であり、意味を再現し暗示する。

ジョーン・デューウェー曰く

「言語は各個人にとつては、その人が言語の意味に眞に關係のある或場合を經驗した時に、はじめて其意味を成す。行爲なしに言葉のみで——實際の物を取扱はないで——意味を與へようとする試は實際の言葉の眞意を奪ふ。」

一定の言葉、或は一定の談話の形式が存する時には、又一定の觀念が存する、と同時に、事實上は成人も子供も同様に、最も漠然とした最も混亂した意味で思ふ事を、精密な言語の形式を使って表す事も爲得る。

言語は思想の符號であり、そして思想は經驗から起る。」

一般目的

一般目的

他人に相通信する方法を供給する事。

幼稚園時代は、俗語の充分な基礎を與へられる時期である。子供は言語に含まれた他人の意味する事を會得する能力を持つべきである。

思考を明瞭にする様に助けること。

又子供が、經驗から發見した意味を——かような意味が、考へ方にも用ひられ得る様に——確かにする事。

子供が彼の經驗に於て精密な區別を認め得る様になると、彼は彼の考に適合する言語を探す。若しそれが供給されるか、或は其の場合の爲に特に作り出されれば、後に考へる時に容易にその場合を参照する事が出来る。言語は辨別に付いて新しい基礎を子供に與へる。

特殊目的

特殊目的

口述表現の技術の増進。

一層廣い經驗と一層明瞭な辨別とに起因する單語の増加。

第五章 言語

更に進歩した文法上の構成。一層完全な文章。その表現に於て自發性を失はずに、しかも互に連絡する文章。一層明瞭な發表。正しい發音。明快な句調。考をまとめること。

觀念を十分に發表することに於て、子供は、彼の經驗の一層明瞭な局面を強める事や、それらを過去の經驗に結びつける事や、それらの古い經驗を言葉で區別する事を學ぶ。社交に於て、他人の考へや感を自分自身の考に照して理解し、それに依て自分自身の考や感を擴大し又修正する。

表現の自由

表現の自由

子供が、言ふべき時には、何かしら云はなければならない様に、感じるようにと導かなければならない。子供が彼の考を他に傳へる様に勵まされる。といふ事を感じる様に導かねばならぬ。

主題

主題

會話、お話、リズム、唱歌は、幼稚園時代の大部分を占めて居る。是等は各地方によりて異なるものである。實際の會話、問答は同様に共通の興味を論題の出發點としなければならぬ。さうすれば會話の主題は各幼稚園で異なる——子供達の環境や經驗が異なるから——言語發表の形式に於ても亦幼稚園によつて何分かの違ひがある。

外國で生れた子供達ばかりの幼稚園では、英語は新しい言語として教へられなければならない。そ

幼稚園の經驗

各自の經驗

して最も簡単なお話と唱歌が、多くの身振や繰り返しや挿繪を使ってされなければならない。

主題は自ら二つの大きい系統に分れる。

1、幼稚園の經驗

幼稚園の經驗は、口述の表現に缺くべからざる主題を供給し、なほ幼稚園内の活動と材料とも關す。玩具お話。繪畫。競技。遠足はたえず暗示や問題や説明や評論を要求する。

2、各自の經驗

子供或は教師の幼稚園以外に於ける各自の經驗は、それが社會的に意味あるものならば、手近な幼稚園の經驗よりも、更に廣い範圍から主題を紹介するのに時機をあたへる。お話や繪畫は屢々同様の目的に役立つ事がある。要目の主題によつて提案された會話の論題は次の様である。

人形の爲に如何にして着物を作るか。幼稚園の室内の掃除。ジュエリーを作るのに必要な材料。

幼稚園の動物の世話と彼等が、どんな風な動作をしどんな風に食べたかといふ事。感謝祭の爲めの準備。

鍛冶屋をみに行くこと。種子や球苗を植える最上の方法。ワシントン記念日の爲の特別な室飾り。早春の花。風の仕業。公園に行く道と其處に何があるかといふ事。

方法

方法

會話の爲に、わざ／＼一日の中の或時を限るといふ事はしないがよい。さういふ風にすると形式的になり強制になるから。

幼稚園に於ての言語發表の方法は、家庭に於ての無形式の方法と同じ様にあるべきである。主な異いといふのは學校では選ばれた場合が備へられるといふ事で、それはたゞに子供に興味あり、又話の欲望を興へるのみでなく、なほ會話の主旨の選擇をあたへ、子供の考を表はすのに充分な單語を供給する。あたかも家庭に於て或出來事の持ち上つた時に、家族をあつめて種々な話が交換されるのが常である様に、幼稚園では子供達がピアノを圍んで歌をうたひに集ふ時があり、又生れたばかりの蝶の羽根の乾くのを集つて見守つたり、或は子供の持つて來た玩具を見たり、又皆の(團體としての)手紙を書いたりする事がある。其時には全體に渡つて興味ある問題が考へられる。

小供達は終日、いつでも表現の自由を持つべきである。教師と同じ様に他兒に質問を出したり、又仕事の手助けをたのんだり、又自分の意見を述べたりする。かようにして或は承認し、或は否認する事のある他人の知識に依て自分の考を試みるのである。若し幼稚園の經驗が眞當に考へる様に子供を刺戟するならば、會話は言語を學ぶ方法として適切なものになる。しかし或場合に子供達の話がつま

誤つた方法

誤つた方法

らないものになるといふは、其の場合が旺盛な思考作用を刺戟しない時のみにかぎる。

その特性から云ても會話といふものに就て、基準を興へるといふ事は殆ど不可能な事である。

會話は、會話をする人達の精神的な態度によつて變化する應答である。所謂會話といふ時の誤つた方法は示すに容易な事である。

問答法

1、問答法

教師は次の様な問を出して、言語の時間を始む。

「昨日は皆で何に就いて話してましたか」

もし前日に印象がなかつたとすると、此の間に對して何の答も出ない筈である。でなければ出まかせの想像の答にすぎない。

「旗を持た人は背の高い人でしたか」

「さうです。兵隊です」

「兵隊が何をしたらと云ひましたか」

此の様な方法は、子供は唯報告するばかりなので、興味を呼び起さない。

2、獨白の方法

この方法は教師が自分の或る経験に就いて、子供に話して聞かせるのに全く時間を費す。それは子供にとつては受け身であつて、話題に興味がなく、或は教師と同じ様に、その話題について知る事は出来ても、少しも發表の機会を與へられない。子供は常に或る直接経験の方から見聞を集めるものである。

3、聯絡のとれてゐない方法

教師は先づ問ふ。

「今朝誰か、何か話す事はありますか」と。

その結果として、多數の子供は、多くの聯絡のない論題に就いて話す。此の方法は考へを纏めさせない。

若し表現の手段として、觀念のみを用ふ事が出来ない——子供が小さすぎて——時には、表現の手段として固形の材料、たとへば繪畫や指遊や、お芝居又は自然の材料の如きものは主題を組み立てるものゝ補助となる。

組織立ち過ぎた方法

4、組織立ち過ぎた方法

教師はまづ

聯絡のとれてゐない方法

繪畫を用ふる貧弱な方法

「昨日は何處に栗鼠が住んでるか」と云ふ事を話しましたから、今日は栗鼠がどんな容態をしてゐるかを話ませう」と云ふ。然し子供はその様な詳細な事がらに、専心集中する様になつてゐない。若し子供の言語が自由に、そして存分に發する事が出来る時には、子供は全體に就いて答へなければならぬ。

5、繪畫を用ふる貧弱な方法

「此處に繪があります。此の繪の中には何がありますか」といふ問は、屢々會話の發端として教師の用ひる方法である。若し繪が子供に親しみある経験を表してゐるのであつたらば斯様な問は不必要である。——繪それ自身が興味ある會話を提案するのであるから。然し若し繪が子供に全く無關係な物なり、動作なりを表してゐるとすれば、子供達は其の意味を想像はするが、然しそれは言語上の價値は少しも持たない。

子供は、教師が繪を説明する時に用ふ言葉を學ぶ——自分もそれを話す様に——が、然しその言語に内容が無ければそれらは單語にはならない。

正しい方法

1、全體と共にした経験を喚び起す事

正しい方法
全體と共にした経験を喚び起す事

仕事をしてゐる大工を見たり、風に吹かれて遊んだり、花壇に植物を植えたりした様な、極めて明瞭な経験は普通会話にとつて善い出發點である。

「言語は、自然に向つた時には力強い効果あるものとなる」子供自身は言語の正しい形式を引ひなければならない。「口述の正しい形式を絶えず反復するといふ事は、日常会話に於ける野卑な發表や文法上に違つてゐる。言葉の使ひ方の習慣を粹くのに唯一の良法である。言語を學ぶといふ事は、知識の上のみでなく、運動神経の習慣と耳の練習とに關した事柄である」

若し子供が、聯絡のとれない滅茶苦茶な方法で、経験の説明をする場合には、教師は幾らかの間を出して、時間の終りに——興味ある提言として——出來事の成行に従つて子供の考を結び付くべきである。

2、一人の子供の経験を全體に話すこと

子供は教師の下に走つて行つて、皆の子供達に話さないで、教師にだけ話さうとする傾向がある。或る一人の子供の話が、全體にとつても意味ある性質のものである時には、教師は其の子を補助して全兒に其の話をする様にさせる。

自分が話す價値のあるものを持つてゐるので、全體を喜ばせる様にする事の責任は、社會的の立場から獎勵されなければならない。

一人の子供の経験を全體に話すこと

口述表現の組織を呼び起す社會状態

3、口述表現の組織を呼び起す社會状態

幼稚園式日の招待状、缺席の子供や教師への手紙等は、書く形式で觀念を形づけるには最もよい機會である。次に掲げるのは轉居した小さい子供へ、或幼稚園から送られた手紙である。——子供の云ふ通りに教師の書いたものである——。

「ピーターさん。

新しい學校はいかがですか。お母さんは御機嫌ようございますか。フロレンスや、メリーや、ジュミーは元氣ですか。

いつか幼稚園に遊に來られますか。私達は皆楽しくして居ます。あなたも楽しくお過ごしですか。新しい學校で何をお作りになりましたか。私達は紙を作つて昨日それに色をつけました。

メリーさんにあなたがどうしてお出か、それとあなたの學校の事に就いて私達へあなたの代りに手紙を書くように話して下さい。早くお目にかゝりたくございます」

4、繪を用ふよい方法

解釋し得る様に導く處の質問は、畫を分析する様にする質問よりも、一層よく藝術精神に適應する。

「誰か此の繪に就いてお話が來ますか」
と言ふ問ひは

繪を用ふよい方法

「此の繪の中に何がありますか」と言ふ問ひよりも良い。

次の話は、ミレーの「歩き初」に就いての解釋として、五歳になる子供が話したものである。「お父さんは赤ん坊に「こゝまでお出」と云つて居た。それからお母さんは赤ん坊を抱いて居た。「こゝまでお出」、そしたら私は車に乗せてあげよう」

ある時人が畑で麥を摘んで、それを皆車に入れて居た。お母さんと赤ん坊はお庭の方はどうなつたかと思つて来た。彼は赤ん坊を抱かうとして手をのばした、そして赤ん坊を抱き上げ様と思つたけれども、する仕事は澤山あつた。彼は赤ん坊を抱けなかつた。それからそれを仕てしまつてから種子を蒔いた。澤山の木が生えて居る。方々の國から大勢の人がどんなに善いかとそれを見に来た。彼は垣根をした。それで誰も入つて觸らなかつた。彼は麥を粉ひき小屋に持つて行つた。粉ひきはそれを粉にした、それで私達は食物を得られるのだ」

繪に就いての短いお話が子供に依て話された後、幼稚園の教師は誤解した部分へ注意をひく事が出来る。たとへば上述の話は、「歩き初」に書いてある手押車は見られないものであるといふ事を示して居る。それで會話は熟知してゐる種々な物の中にある。見られない物の上に集注される。或時には誤解されるものは繪の意味であつたり又動作である事がある。斯様な場合には幼稚園の教師は正しい意

味へ導く様な事から就いて問ひを出す。

かような繪を學ぶ方法は、想像を發展させ、なほ繪と繪に就いての考へに統一を與へる。問ひが單に繪の種々な部分を指示するのである時は注意力は發展するが、それは眞に繪畫を使用する方法ではない。それは種々な部分の關係から表現された眞意の熟思である。

口述言語の補助

口述言語の補助

言語の働は、手仕事や畫く事や芝居化に依て大に補助される。觀念の傳達は言語である。と云ふのは身振手振も眞に言語の用語となり、又言語を豊富にする其の自身の言語を持つて居るからである。

この芝居化と畫く事と言語とは密接な關係を持つてゐる。幼稚園時代の子供は、第一には芝居化に依て、次には口述の言語によつて、更に畫く事に依て觀念を明確にしようと努力する。ずつと幼い子供は起つた事件の成行をあまり注視しず、經驗の種々な部分を芝居化する。次いで起る口述表現は順序立つた物ではないが、身振や手振よりは一層連絡のあるものである。畫くといふ事は經驗の個立した部分を明かにする。子供が成長するに従て、其の考は更に組織したものに成て來る。其の芝居化する事に於ては種々の出來事を語らふとする企圖が表れ、其の口述表現は原始的なお話にある事件を含む又畫く事に於ては多少連絡ある種々な物を再現する。芝居化は原始的言語の形式に於ける構成で

あり。繪は繪畫的形式に於ける構成である。この二者とも觀念を組織立てる事を助ける爲の言語と連絡して教師に用ひられる。

効果

効果

子供の言語發達には家庭の狀況が、大なる影響を與へるから、絶對的な基礎を置くといふ事は出來ない。幼稚園に於てのその訓練は、以下に示す如き、欲望、力、支配（自在にすること）を増進せしめる事である。

- 1、語調、發表、發音、文法上の構成の統御と支配。
- 2、問を發したり、自分で言ひ表したりして觀念を言語にする力。
- 3、單純な會話の理解と上述の項目へと適應する事の可能性。
- 4、漠然とした考へを、正しい充分な言語で表現し、單語の數に加へようとする欲求。

單語には學校や家庭や近隣の一番親しみの多いものゝ名が含まれてある。又日常生活や遊びの爲に子供達が了解する必要がある様なものゝ性質や活動、又子供が好奇心を持つ處の性質や活動が含まれてある。禮儀正しい交際の應答はすべての幼稚園で發達せらるべきである。「どうぞ。ありがとう。ごめん下さい。はい誰々さん」は相當すべき時に自然に出て來なければならぬ。話された時に答へ

る事と、一人の話が終るまで待つといふ事は練習の一結果とならなければならぬ。

言語の教育は、子供の發音し得る字數に依て測らるゝものではなく、子供の役に立ち適用せられ得る單語で表はされた或る經驗の觀念の明瞭性に依る。

第六章 文學

お話や唄は幼稚園時代の子供にとって言語の藝術である。よい文學を鑑賞するといふ事は文化最高の所産の一を樂む事である。文化最高の所産即ちそれは人をして靈長たらしむる、ひき上ようとする高度の進歩が持ち來した想像と、言語表現とである。

善い文學は普遍的な原理を、すべての時代のすべての人に理解され得る形で、具體化するものである。

一 概目的

一般目的

快を與へる事と、それに依て感賞力を發展させる事。
想像を鼓舞する事と、言語形式或は劇的表現に依て創造の欲求を喚起する事。

特殊目的

特殊目的

言語表現を自在にさせる事

言語表現を自在にさせる事

1、模範的言語を與へて

2、模範的藝術形式を與へて

活動の方向を指示する事

——それは、子供の心を動かし、なほ實際には経験しなかつた場合まで想像を働かし、子供をして劇的に進展させる——。

高い理想を振興させる事

高い理想を振興させる事

1、滑稽談に依て、——下級の人々は他人に不快を與へてまで異状の事を喜ぶが、滑稽の感念は無害な驚きで、驚かしたり笑はせたりする。

2、子供の経験を表すお話に依て、——子供自身の経験の中から意味のある事を取り出しそれを強め又話に依てそれを適切に結び合はして示す。

3、如何に行ふべきかと云ふ其範を與へる道徳を目的としたお話に依て、——教訓は詳しく説明しはならない、子供自身で解釋し得る様に十分明白に表示せられるのでなければお話は力の無いものである。

主題

主題

のである。

お話の主題は、お話の中の人物の活動に依て強められた處の内的態度である、それは聞き手の感情上の反應である。又お話は要目に示された話題に就ての考慮から生ずる氣分に直接關係する、が話題は、あなたがち要目に示されたものには限らぬ、クリスマス前の晩のお話はクリスマス當時に話される——文學の形式であたへられるクリスマスの経験の表現であるから——「お婆さんと豚」の話は連續の觀念を表示し、子供が互に助け合ふといふ様な活動を爲はじめて時に話されるべきである。

年長の子供達の爲のお話は、童話、英雄談、實話、滑稽談、フェアリーの話、實話と云ふ様に分類される、幼稚園時代の子供に聞かせる話の中で初めて挙げた三つの題目に叶ふものは極めて僅少である。簡単な童話として話してもよいのは「リトル、レッド、ライディング、フッド」である。英雄談と同様の目的で役に立つのは簡単な良い子供達の實話——「子猫ブシー」や「セドリツクはどうして子猫を救ったか」の如き——である。よく知られてゐる小數の寓話にのみ、此の時代の子供を興がらせるのに十分明瞭な意味がある、——「野兎と龜」「北風と太陽」「ライオンと廿日鼠」の如き——。

幼稚園に於て話される多くの話は、フェアリーの話、滑稽談、實話の三題目の下に分類される。最

もよいフェアリーの話は度々話される。子供はお話の中の人物の架空自在を認め想像の自由を楽しむ。子供はお話の中の人物を彼の正邪の理想を基礎づける模範としては受け入れない。滑稽談は、平常よく知て居る人が常と異た受け答をしたり、又話手が語調を變へたりするのその特色がある、しかしその中にわかる様な、不快な分子を含んではならない。「シンジヤ、ブレット、マン」では立場そのものがユーモアを創造する。なぜならば「私はもう死んでしまった」と叫ぶのは小人自身であるから。かような話は決して倫理上の意味を傳へるには適しない。それは純ユーモアを意味してゐる、日常の生活状態を對象とするお話に於ては細かい倫理上の入組みがあつてはならぬ、——常に正義を勝たす正邪の争闘をしくむ他には——。明かに教訓の爲といふお話はいづれの要目に於ても僅である。お話は又屢々讀んで聞かされる。話し手の劇的な所作は子供の注意を惹き又保つ助けにはなるが、或時は子供の注意は、話そのものゝ上に直接集中されるべきである。斯様な場合にお話は讀み聞かされる、讀み手の個性は話し手程に強く感じられないから——。面白味の大部分が、其獨特の言ひ方に基く處のお話は、讀む話として選ばれ得る。挿畫のあるお話は、この目的の爲によいものである。殊に「ビーター、ラビット」や「リトル、ブラック、サムボー」の如きは、よき。

言語の選擇

話し方に用ひられる言語は、お話の題目に適合したものでなければならぬ。實話は簡明な言語で、フェアリーの話は美しい流暢な言語で表はさるべきである。幼稚園時代の子供にとっては話の行動は早くあるべきである。詳細な記述的説明はされるべきではないから。此の時代には律動的語句の反復が大層喜ばれる。

世界文學のお話は、子供に理解される程度にまで單純化されてはならない、美しく又力強い、かげに含まれた意味を略して其の眞價を低く下げるよりも、其の主題に適合して形式で與へる思想を、子供が感賞し得る時代になるまで待つ方がよい。後になれば完全な形式で感賞され得るものを、效力の弱い譯意で與へるといふ事は不必要である。そして子供の各時期によく適したよいお話はその他にある時には「ジグフリード」「キングアーサー」「ベセフォネ」「ゴールドンタッチ」は幼稚園の子供に適す様にされる事もある。

お話の形式

お話には、前置き、葛藤、頂點、終を備へた一定した脚色がある。主な人物は明瞭にそして他は背景となるべきである。小さい子供達は主役人物を對照的に表す脚色の反復をことに喜ぶ。たとへば、「リトル、ワンアイ、トウアイ、スリーアイ」の如き。

よい形式の例

或時小さい少女が果物畑の下を歩いて居ました。その時丁度頭の下つて居る枝に、まあ、真紅なリンゴのなつてゐるのを見ました。

「まあ、どうだ、リンゴさん、私の處へ降りて来て下さいな」

と少女は云ひました。けれどもリンゴは少しも動きませんでした。小鳥が葉かけから飛び立つてリンゴのなつてゐる木の枝にとまりました。

「まあ、どうだ駒鳥さん、リンゴに歌できかして下さい、そして私の處に来るようにして下さい」と少女が叫びました。こま鳥は幾度もくく歌ひました、けれどもリンゴは動きませんでした。「私はお日様に助けて下さるように願ひよう」と少女は思ひました。

「どうぞ、お日様、あの赤いリンゴの上に照りつけて下さい、そして私の處へ来るようにして下さい」

と少女は云ひました。お日様は盛に照りましたそして紅い頬を兩方とも撫でました。けれどもリンゴは少しも動きませんでした。丁度其時大風が吹き起て来ました。

「まあ、どうだ風さん、あの紅いリンゴを揺つて下さいそして私の處へ来るようにして下さい」と少女が叫びました。風は右に左にリンゴの木を吹きなぎました。そして紅いリンゴは少女の前かけの中に轉がり落ちました。

二十日鼠と
松鶏と小さい
赤い鶏

二十日鼠ライナツと松鶏マツトリと小さい赤い鶏

或日小さい赤い鶏が食物を拾ひ歩いてゐました。そして一粒の小麥を見つけました。「おや、こゝを御覧こゝを御覧！ 私は小麥を見つけた、誰か粉ひき小屋へ挽いてもらひに行つてくれるだらうや、そうすればお菓子がたべられるのだがナ」と鶏が云ひました。

「誰がこれを粉挽小屋に持て行くか」

「私ぢやない」と廿日鼠が云つた。

「私ぢやない」と松鶏が云つた。

「そんなら私が自分で行かう」

と、小さい赤い鶏が云つた。

「誰が粉を家へ持て行くか」

「私ぢやない」と二十日鼠が云つた。

「私ぢやない」と松鶏が云つた。

「そんなら私が自分で爲よう」

と、小さい赤い鶏が云つた。

「誰がお菓子を作るか」

「私ちやない」と二十日鼠が云つた。

「私ちやない」と松鶏が云つた。

「そんなら私が自分で作る」

と、小さい赤い鶏が云つた。

「誰が此のお菓子を焼くか」

「私ちやない」と二十日鼠が云つた。

「私ちやない」と松鶏が云つた。

「そんなら私が自分でする」

と、小さい赤い鶏が云つた。

「誰がお菓子を食べるか」

「私が」と二十日鼠が云つた。

「私が」と松鶏が云つた。

「それは私が食べませう」

と、小さい赤い鶏が云つた。

方法

家庭教育は、新入學兒童の學校で初めて話されるお話の種類を定める。教養ある家庭から來る子供達は、どんな長さのお話でも聞くが、初めて話されるものが、かつて幼稚園の先生から聞いたものであるならば聞く力は益増進さるゝに違ひない。「マザー、グース」は短くて、明瞭で、黒板畫や、繪や身振を使って話す事の出來るお話で、手初めのお話としては大層善いものである。

お話の数は、子供の進歩の如何による。原則として或るお話は毎日される。よく知られて大層好かれてゐる。「最上文學」の話は、教師が其の一字の位置を違へても、子供がそれを正し得るまで繰り返される。お話は斯様な方法で、十分受け入れられ、想像と表現の子供の肝要な生活の部分を作成す。

子供達は極く簡単なお話を、くりかへして話す様に又他の話を劇的にする様に獎勵されるべきである。然しもし子供達が、まだお話を思ひ起す様になつてゐなかつたら、子供からお話の事柄を無理に

引き出すよりも教師自身も一度話す方がよろしい。

又子供達は、獨創的の話を話す様に奨励されるべきである。それらは未熟のものであつても、想像的思考を自在にし、それに言語的表現を與へる方が、練習を重ねるに従つて漸次起る。繪の解釋をする事は、子供がお話をする時の創造力を増進する助けになる。次に掲ぐるはミレーの「歩き初め」に就いて四歳の子供がした話である。

「或る處にお父さんとお母さんと赤ちゃんが居た。お父さんは終日働いてゐた。やがてお母さんが「お父さんのお歸り」と云つた。お父さんは赤ちゃんを抱いて家にはいつてお夕飯をすませた。」

この簡単なお話は、よい文學形式の規定に叶つてゐる。お話や唄や詩の爲に子供達は剪り紙の作品を喜んで作る。その作品を本に纏めて家へ持ち歸ると、そこで又子供達は唄やお話を家族の爲にくりかへす。一團の爲のかういふ繪本は團の各自の子供が各自の考を發表し、それに先生が題を書いて作り出す。

話し手の、話し振りはお話の興味に大層關係を及す。聞き手に話を、感じさせようとする人は、お話が話す價值あるものといふ事を信じ、世の思想の最高最上のものを與へてゐるといふ事と、他の何れの方法によつて與へ得られぬ（これのみ力である）といふ事とを信じなければならぬ。又話し手は、聞き手が話の全價值を得る事の出来るように話す事が出来るといふ事を信じなければならぬ、又

効果

短いよいお話の感賞

詩と歌

効果

短いよいお話の感賞

種々なお話をくりかへし得る能力、（主な出来事を順序正しくならべて）
簡単な想像話を創造する能力。種々な短いお話を劇的話す能力。

詩と歌

第大章 文

學

「マザー、グース」の歌は、幼児にとつての善い詩である。各々が、ある特種な場合に情緒的な反動を惹き起す。「マザー、グース」をよく知らない子供達にはこの歌を與へるとよい。

狀況を記述し或は情緒を表現する、一句、一節歌と詩とは子供達に、彼等の経験を語り得る爲に與へられる。之等の長短や難易は子供の發達とその家庭教育によるものである。やゝ長い詩は子供に讀み聞かせるのによく、一節或は、一行が子供の歌から、屢々記憶する爲に選ばれる。

遊戯とゲーム

第七章 遊戯とゲーム

完全な自己活動の精神で、遊戯やゲームをする子供は生長して必ず自己及他人の幸福を増進する爲め自己を犠牲にする事の出来る、完全な自決的人物になる。

遊戯が、教育上からも、又人生からも重大なものであるといふ事は、現代の教育家の多くが一致する處であつて、フレイベル以來その方法の選擇や形式の組織に就いて多くの研究がなされて來た。遊戯は又筋肉鍛練や注意力の増進と同様、子供の種々な時期に於ける社會本能を十分満足せしめる。

一般目的

一般目的

體力増進。身體の鍛練。活動の優美と容易。社會的協力の訓練。経験を理解する爲の補助。

特種目的

特種目的

音、色、形を識別して一時に一つの感官を働かす遊びに依て、特種な觀察力の鋭敏さを増進すること。筋肉を平均して發達せしむること。——珠に胴の筋肉と、此の時代に急速に發育する腕、足の筋肉に於て——。

リズム的な活動によつて自己表現を助長する事と、之等の活動を美的形式ならしめること。劇的表現によつて経験を理解する事と、組み立てる事を扶助する事。

主題及方法

主材及方法

正しく行はれるゲームは、身體的鍛練と智力の集中、と社會的協力の悦とを含む——程度は一樣ではない。四歳から六歳までの子供に特に價値ある遊戯とゲームは次の如く分類される。

感覺的辨別の働を呼び起す遊戯。

筋筋の活動と鍛練のゲームと遊戯。

リズム的活動と歌に合せたゲーム。

第七章 遊戯とゲーム

感覺の遊戯

感覺の遊例 — 幼稚園前時代に —

子供達は、身體の基礎的調和の熟練と初等感覺智覺の鍛練に、多大な關係を持つ。物は子供達にとつて二重の興味を持つ。——身體的反應の中心としての興味と新しい感じの源としての興味と——

之等は、觸覺視覺聽覺筋肉感覺を享樂する爲になされる。

幼稚園時代には、子供達は日程にある音樂的經驗及多種の材料で製する事によつて、更に多くの感覺訓練を受ける。が之に付け加へて色、音、形、組織を辨別し得る自分の能力を意識する機會から悦と利益とを得る。

感覺遊の例

感覺遊の例

1、觸覺 目かくしをした子供が熟知の物を、手で觸て見てあてる。その物を何か柔かい地質の袋に入れ、ばゲームの程度を少しむづかしくする事が出来る。

2、聽覺 子供達は目に見えぬものを音に依て識別し或はその位置を識別する。同様の遊びで一人の子に他兒をその聲であてさせる事がある。

3、視覺 子供が目をかくしてゐる間に三個以上の物を一列にならべて置く。その中の一個を取

筋肉鍛練のゲーム及遊戯

りのけ或は順序を變へる、目をかくした子供は不足の物の名を云ふか、或は元の順序に置きかへるかする。

筋肉鍛練のゲーム及遊戯

1、器具を用ひて 身體構成的發達は必要に應じては匡正的鍛練を行ひ又賢い指導による戸外活動も含む。石けり、鬼ごと、子取る、等は有用であるのみならず現今戸外遊園に見る所の遊戯の形式である。

それには簡単な板すべりやブランコ、シーソー、階級、みちかい梯、棒昇り、繩のぼり、適宜な高さの機械體操具及その他の遊戯道具も含まれてある。之等の活動は胸と腹部筋肉と共に身體の軀幹を働かせ同時に手足を働かせる。之等は子供の體力と勇氣を増進し、身體的制限に打ち勝たうとする道徳的な決心をも増す。此の如き形式の遊びの器具は冬季に體操場で行はれる。尙ほ場處が許すならば斯様な装置を教室の中に置く——必要に應じて用る様に——事は望ましい事である。簡單で面白い、身體の平均を取る練習は幼稚園の室の床に於てある板の上を歩いたり走たりするのを覺える事である。暫時してこの板は床から一、二寸高くしてもよろしい。それは子供達を一層注意深く身體の平均を取るようにする。室内の小さい階段も直ちに熟達しその頂上の段に座て新しい視點から見下し得た事を子供達は大そう喜ぶ。幼い子には昇りはじめに擡る爲に階段に手摺りが必要である。室内で用ひる其

他の器具にはモンテッソリーの併行棒がある、——頂上が三インチの板で其上に子供達は腕をやすめ腕の重みを足に支へさせぬようにし足は下の方の横木にのせて運動する——。

2、ボールのゲーム 幼稚園時代の子供はゴム毬を轉がしたり、ついたり、投げたりして用ふ。他のゲームをするに先つて子供達は六インチの大きさのゴム毬で十分自由に遊ぶ機会を與へられるべきである。——ゴム毬遊びを知り又自由にそれを扱ひ得る様に——。

初めにする毬のゲームは簡單で容易にし得るものでなければならぬ、次いで一層多くの技巧や練習を要するものへうつる。例へば子供達は床に圓になつて座り一兒が圓を横切つて毬を轉がすと、それを受けた兒がまた送り返しそれを横行する。も一層これをむづかしくするには各兒童が某と定た子供へ圓を横切つて毬を轉がすような仕方にする。第三の更にむづかしい方法は輪の中央に的を置いてゴム毬でそれを打つ事である、上手になればだん／＼的を小さくする。

同様にして毬をはづます遊びを始める。——まづ簡單にはづましたりつかむたりする事から——。次で圓の中に一人の兒が立て代り／＼に他兒に毬をはづまして渡す。數人の子供が或回数か或は歌が終るまで毬をはづませ、その歌の終た時或は其回数すんだ時他兒に之を渡す。豆籬やボールを投げてすると同様な方法の遊びはもつと成長してからの方がよい。底無の籠やベルの附いたたがを通して之を取扱ふ事は技巧を發達させる。これらは技術や敏活さを増す爲の多くのゲームの中の單なる例にすぎない。

リズム的な歌をうたふゲーム

きなり。

リズム的な歌をうたふゲーム

リズム的な活動の遊戲は、室内を速く又遅く走ったり歩いたり飛んだりする簡單な事——それは已に子供達が自由に爲得る——ではじめられる。やがて種々なリズムが紹介されるに至て子供達はそれ——各自おもひ／＼の方法で、——身體的運動で再現する。はじめは子供の運動を一定するよりもむしろ音楽の方が從的になるべきである。子供達が上手になれば種々なリズムや種々な速度に應じる力が出て来る。運動は例へば、少し歩きスキップし又歩く、或は歩き回轉し他方へ歩く、又前にスキップ横にスキップ手をつないで圓なりにスキップする等交互になつて居る、そして斯様な變化は子供達から暗示されるのである。フォークダンスや歌ふゲームの特色である動作形式や簡單な歩き方は實驗の中に自在に爲得る様になる。ごく簡單な小さいダンスは、之等の動作を結び合し子供と教師とで作りに出される。此の様なリズムから Come choose a little partner, Dounce a little partner, Sally go round the store, Our shoes are made of leather, 等のゲームの形式へうつるのはほんの一步である。——これらのゲームは言葉から暗示を受けて居るが、言葉は變へてもよいのである。最も簡單なリズムの表現は、動作の優美と容易を増すのに價值あるものであつて一層藝術的なゲームの形式を自然に發展させる材料を供するのに價值あるものである。單純な素材な歐洲の農夫の生活に起原してゐるフ

オーケダンスの或るものは、其内容を十分子供に理解し得る様にする爲に變化させてもよい。しかし多くの指導を要する入り組んだフォークダンスは年長の子供——自己表現と同様に技巧を喜ぶ——に適してゐる。

劇的遊戯

劇的遊戯

四歳から八歳の子供達は「兒童の自發的想像の黄金時代」である。

模倣は生理的及感覺運動形から劇的形式變化がある。觀念が實行となり、暗示的な環境の活動が心像を刺戟し、それが劇的形式に再現される。

子供が自發的に玩具や手近いもので劇的遊戯をするといふ事は前の章に於て已に説いたことである。

家事遊まごごとや他の社會的活動は要目の主題により或は又他の思ひがけない經驗に暗示される。斯様な種類の遊では子供は自分が興味を持た活動をよく知らふと努力する。教師は同情を持って子供の活動を生活に眞實である様に又遊戯の意義を豊富にする様な事件を附け加へて二層完全な相關的な動作に導く。それには子供が理解しようとする活動に一層直接な經驗を與へ又想像する様に誘導する質問を出し或は遊戯其他之に關する活動を提案するがよい。例へば店遊びをするには最初は子供達はたゞ賣買のみに餘念がない。がいつまでも其状態が續いたら教師は「御馳走にするのに買物をお母さんほど

うなさるでしよう」もしお母さんが買ひに行かれない時はどうしますか「雜貨店は何時閉るのでせう等といふ問を出す。日程に提案された劇的遊戯の主題は「赤ちゃんの世話」「日々の家事」「玩具店へ買物に行き、うそつこの玩具で遊ぶ事」「雪で雪人形を造て遊ぶ事」「郵便配達」「鍛冶屋」「消防隊」「汽車」「學校」「園藝」其他一般子供の周圍にある簡單な事柄である。之等のゲームは子供と教師の間にやりとりをさせる。教師の子供の考に對する同情と友情とにより子供は遊戯の意義を明かに理解し得る。子供の想像が發達すると彼等はお話を劇化しようとする。教養ある家庭から來る子供達を自分で選みその筋を演じる。かくしてお話に依て満たされた想像的經驗の價值が増大される。然しこの種類の遊戯は常に表現を要求する感情的興味を伴ふといふ事を念頭に置かねばならぬ。

「三匹の熊」「三匹の牡山羊」「五匹の小さいリス」の如きお話によつて暗示された遊戯は幼稚園の子供に適する遊の例である。劇化「畫くこと、言語」との關係は言語の章に於て述べたので此處には略す。

多くのリズム的活動の遊戯は劇的要素を持てゐる、例へばフェアリーの様につまさきで歩き、巨人の様に重げに歩き、兵士の様に行進し、馬の様に、ランニング、ギャロツピング、ドツロツテイニング、シーソーの様に腕をのばして身體を曲げ、獨樂の様に回轉し。實際に繩がなくてもスキップで架空的に繩飛をし、時計の振子の様に腕を振る等々の遊戯の形式は子供の興味興味の自發的表現として、

活動に物に、再現された時、非常に価値あるものである。之等の中の或ものは歌を伴ふ形式をとる。Neidinger's Seesaw や Miss Crutler's His is the way my dolly walks, は即ちその例である。

他の劇的な遊戯から I went to visit a friend oeday や Whowilly my toys? の如きリズム的なゲームを生ずる。幼稚園の遊戯が、正しく理解され賢い進展を來す時には、子供達はその感情生活を喜んで自由に發表する事が出来る。

幼稚園の遊戯及ゲームの或る規範を表せば次の如くである。

一般的な或は少くとも、一層大なる経験へ子供の興味を導くに足る處の、価値ある内容を持つべきである。

漸次簡単に、然し純粹な藝術的形式をとらねばならぬすべてゲームの価値は次の如き問を以て試みられる。

これは子供の興味から起るか、そして子供達はそれを喜んでするか。

このゲームは漸次主題に適當な形式をとる事が出来るか。

このゲームは形式内容の兩者に於て、更に發展し得る価値ある内容をもつか。

これら以外の技術と充分な表現とを要求するゲームを、くりかへす事は形式が完全であるか或はくりかへす毎に變化を來すか、そのいづれかでない時はそれは時の消費であり發展の妨である。

効果

効果

ゲームが絶えず教師からの匡正せられたり暗示を受けなければならぬ場合には、ゲームの形式が兒童に取てむづかし過ぎるか又は子供達の興味が起てゐなかつたかを表すものである。

態度。興味。趣味。自由なる劇的遊戯に於ける思想發表の容易、藝術形式を有するリズム的な活動の享樂。

習慣と熟練。ある身體的缺陷の匡正。筋肉の鍛練。身體の輕快。

智識。強制及熟練を要するゲームを支配する規則の認識。自然及社會に關する活動に對しての一層理智的な興味。

音樂

第八章 音樂

子供達は子守歌や睡り歌を聞いて其の旋律やリズムを反應するが、言葉や音樂の性質上、一定の形式を教へられない前に自然に歌ふことをはじめめる。小さい子が仕事や遊びに夢中になつてゐる時には自分で小聲に歌てゐる。キープリンは Muhammad Din の物語や Plain tales from the Hills に於

て、小さい黒ん坊の子供が石やガラスの破片や萎れた花で造た不思議な宮殿の事を物語て居る。或日 Muhammad Din が打たれて凹凸になつてゐるボールを見附けて其れが他の物より一層不思議な組立てが出来さうであつたので、「急に愉快な唄をうたひ出した」

一般目的

一般目的

歌はふとする望を起させる事

樂器、肉聲共に、音樂といふものに對する感じを呼びさますこと。
音樂的經驗から社會的感じを創造すること。
主題を一層活々と興味あるものとする事。

實質目的

特殊目的

輕快な調子と言葉の流暢な歌ひ方を定めること。
子供のリズムに對する感覺を發展せしむる事。
子供をして他の旋律を再現し、元の旋律を考へて表す様に導くこと。

主題

主題

要目の主題は歌の種類を次の如くに提示する。

歌の種類

- 1 家族的の歌
- 2 挨拶の歌
- 3 讚歌
- 4 式歌
- 5 天候の歌
- 6 愛國の歌
- 7 仕事の歌
- 8 季節の歌

一般目的に關する方法

一般目的に關する方法
歌はふとする望を起させる事

歌はふとする望を起させる事

ゞれの群團的練習に於ても、教師が正しい感じを導くならば子供達は熱心にこれに参加する。單音を取扱ふ時に子供に自分の無力を感じさせない様にしなければならぬ。單音は歌ふといふ事だけで學び得る。

群團で歌ふ時の熱心さが子供達をあまり大聲で歌ふ様にする傾向がある。これらは子供達の聲の爲によくなくから注意しなければならない。他兒の聲を壓倒しようとする一人々々の子供達は、歌ひながら他兒の聲やピアノの音をきく様に教へられるべきである。

或幼稚園で採用されてゐる様な大層調子のめちやくな成て居ないと、唱歌の間でさへも始終子供達が靜かに壓さへつけられてゐる他の幼稚園又は小學校の教室に於ける一本調子な歌ひ方との間に於て良き中間を求むべきである。

器樂と聲樂とを通じて音樂的感じを呼び起すこと。——歌をきくこと。

子供達はお話を聞く事に依て文學上の感賞力を増進し良き繪を見る事に依て美術の感賞力を増進する様に歌をうたふのを聞く事に依て音樂の感賞力を増進し得る。蓄音機は肉聲には代れない、何處の幼稚園の教師も子供達に對してお話をして聞かせる時に歌を歌つて聞かせる事も出来る筈である。歌の選擇は一年の一定の時期には群の興味を根とする。嬰兒に對する母親の注意といふ事は民謡やブラームスの子守うたを歌ふ様にする。子供達に教へ様と思ふ美しい精巧な多くの歌を歌つて聞かせるのが

よS.之等の歌は Neulinger book 中の歌の様に空想に富んで居るので宜し更に美的な歌の例を擧げれば

Songs of the child world 中の The bird's Nest.

Nature songs for children 中の It is spring.

若し教師が歌で聞かせる事が出来ない時にはレコードを使ふのがよい——子供達にとつて聲樂のレコードを聞くといふ事は器樂のレコードを聞くと同様の價値があるかどうかは疑しい事ではあるが——丁度お話を聞く時の様に子供達は歌ひ手の顔を見る事が必要である。器樂を聞くこと。

我々は幼稚園でピアノを用つて屢々失敗した。我々は幼稚園に於て餘りたえずピアノを使用したので、どんな賢い方法に依つても子供達がそれを聞く能力を鈍らした程である。例へば毎日の會集の終りの時にするおきまりの「靜か」の如き。

大人行進の様な活動に Hande の Tango の様な偉大な緩奏曲を使用せるのは亦樂器の濫用であるが、其れとは反對に行進の急奏曲を奏したり其他劣等劇場の音樂などを使用するのもこれと同様である。我々は音樂の原形をくずして、幼稚園に都合の宜い様に、其音樂本來の目的をはずれて使用を試みてはならぬ。Tangoの如き音樂の高尙な調子を破壊し之を不具にして幼稚園の種々な活動のリズム

幼稚園保育要目

とする様な事があつてはならぬ。一方劣等劇場の音楽は演奏の技倆如何に係らず所設俗なものとすにすぎないから、斯様な空気をして幼稚園を侵さしめるべきでない。

Schumann の Wild rider and Soldier's marche や Schubert の Marchemiliaire や Gounod の Funeral marche of a marionette は幼稚園で用ゐるに適した簡単なそして模範的な音楽の例である。幼稚園に於ける凡ての楽器の性質は活動に表して子供達が反應しつゝあるにしても、無意識的な効果を有し、其選擇が賢ければ音楽觀賞力の助となる。音楽の或特殊な形は往々にして要目の考と一致する。かのクリスマスに演奏され歌はれる Stille nacht の如き又ワシントン誕生祭に演奏される他民族の愛國の曲の如き又春演奏されるメンデルソンの Spring Song グリーグの To Spring の如き。學年の終りに子供達は器樂と歌とを簡単な方法で次の様に分類する。

眠り歌。ダンスの音楽。お寺の或はオルガンの音楽。軍隊音楽。

かゝる特色を持つ新しい音楽を子供に聞かせると子供達はそれがどの部に屬すかを語る事が出来る。

社會的感情を創造する事

合唱に於ての社會的要素は音楽の主要價値の一である。近來團體合唱が國內到る處發達したのは此の要素が根據に成てゐるのである。幼稚園の教師が子供と一處に歌ひ一處に奏する理由は、團體が共

社會的感情
を創造する
事

通の經驗に與かるからである、が然し多くの音楽監督は、教師は決して子供と一處に歌てはいけなと云ふ、かような命令の理由は、子供が教師の聲にあまりたより過ぎ又教師の聲が子供の聲を壓倒するといふのにある。且つ又若し教師がたえず子供と歌はふとすると子供の一人々々の聲をきく事が出来ず従て子供各自の旋律を正しく歌ひ得る能力の程度を知る事が出来ない。教師は子供の聲に耳を傾くべしとする場合其處に若干の教訓が存する事は眞實である。と同時に、我々は技術が進歩しつゝある時と、挨拶の歌又は愛國の歌に於けるが如く社會的經驗を表白するに音楽が用ひられつゝある。時とを區別すべきである。斯くして教師は群と同一視される。

主題をもつと明かに興味深くする事。

主題の或状態は音に依て最もよく表現される、繪畫は子供に對し直接明確に訴へるが然し感情的と云ふより寧ろ智的である方が多い、敬虔の感じを起さうとするには Still Nacht を弾いて、或は歌で聞かせれば、クリスマス繪を子供達に見せるのに適当な氣分を作る事が出来る。

或觀念は他のどの方法よりも巧みに音に依て表現される、お寺の鐘や鍛冶屋の槌の音の如き、斯る音楽の特性は音楽感賞に大に密接なる關係がある。

特殊目的に關する方法

特殊目的に
關する方法

快活な楽しい音調を定める事

1 よい音調を作る様にすること。それが爲に子供達が、普通音階のFより低くより高く歌はないようにする。團體合唱の時、子供達が大きな聲を出さないようにする、子供が自分の聲がどんなか解るように一人々々で歌ふ事を奨励する。模範として教師の聲を聞き、正しく調子の合た兒童の歌を聞く。

2 歌の文句を流暢につなげて歌う様にすること。息をつぐ事は調子の上に重要な事である、そして滑らかに歌ふ習慣が、正確な音調と同様に最初から初められねばならぬ *John Gill* や *Here's a Ball for Baby* の如き自然にリズムミツクなものは滑らかな歌がうたへる迄は教へてはならない。我々は短い歌を教へ、子供に教へ子供に教師のを模倣させて一息で *Our Goodmorning We will say* の様な可成長い句を歌う様に奨励する子供達は人が全文を滑らかに、きれくで無く、話す様に、句を云ふ事に依て此の目的を達す様に導くことが出来る。初めは凡ての歌は極めて靜かに歌はるべきである。我々は子供達に對して言語、リズム、旋律の熟達をあまり急に望みすぎる。入學の初めの數週間にこれがなされると或る子供達は皆が歌てしまつたあとでなほ、歌をのろく／＼と歌ふ。Mother Goose の詩や *Finger Plays* は學年の初めには歌はずに話して聞かせる方がよい、若し話が柔かな肉聲で豊富な表情で語らるゝならば歌ふと同様に子供達には興味あるものである *Mother Goose* の詩を劇化させ

のに器樂を伴ふもよい。子供達が活潑なゲームをしてゐる間は歌てはいけない、通常、活動は子供に歌ふのを忘れさせるほど夢中にならせる。子供達が靜かに歩きまわる *The Farmer in the Dell* や *Itskit Itskit* の様なゲームでは活動が歌をうたふ息の調子の妨害とならぬ、しかし此の際子供の會台の時通りでゲームをして遊ぶ時の様な貧弱な音調に退化して行かない様に注意しなければならぬ。リズムに依る子供の感覺を増すこと。――

1 器樂に對する身體のリズミックな反應――マーチ、スキップ、ランニング等の如き――。
音樂は子供の活動に従ふ。

子供は音樂のリズムに反應する。

新しい音樂に對して子供は、之はスキップが出来る走れる等といふ事を認識し正しい活動を以て之に反應する。

子供は音樂の特性に對して適當な方法で反應する。例へば *Itskit* に於ては、最初の數節の緩やかな調子に次いで大層活潑なリズムが来る、この曲の初めの部分で子供達は自分から歩いたり、どんどん踏み歩いたり(圓の周圍を、又中心に向ひ或は圓週に向て)し、次の部分では踊り跳ねたり、くる／＼廻たりする。

2 器具や手等でタイムをとる事

歌のリズムを手拍子でとる事。

四拍手とか三拍手等の異た速度を手拍子する事。

手拍子と同様に指揮棒でタイムを取ること。

トライアングル、大太鼓、手太鼓等の一隊で一緒にタイムを取ること。

楽器の全部は指揮者従ふこと

Ladla の曲に應ずる場合の様に音楽の特性に對して楽器の輕重を區別すること——重いには大
小の太鼓を持ち、輕い時にはトライアングルを打つか、小太鼓を振るかする様な——。

子供達が元の旋律を述べたり考へたり又他の旋律を再現する様に導くこと。

1 聲の吟味

學習の最初の數週間に子供達の聲を吟味し、子供達の音調を適當させる能力に從て三つの群に分類すべきである。

1、團は單曲を正しく歌ふ事の出来る子供達で組織され。

2、團は曲の部分は歌へても高い處の出ない子供達で成立ち。

3、團は單音丈しか出せない子供で組織される。

2 調子をそろへる事

曲を歌ふ事の出来ない子供は殆ど多くの場合、身體上の缺陷ではなく、曲を作ると異た音調を聞き別ける能力が無いのである。歌を正しく歌ふには子供達は單に音の種々な高さを、聞いたり出したるばかりでなく又リズムや言葉に通じ音調と言葉とが調和するようにしなければならぬ。

簡単な歌を手はじめとして、それから後に述べる様に分析に進むのが最も良いのであるが、僅の調子しか出ない子供達に對しては音調の練習が必要である。これは小團で行ふ方がよい、但し時としては幼稚園の全兒に對しても興味ある練習である。

歌ひ得る子供の、音調の正確な再現は他の子供が音調を一層明瞭に聞く助けとなる。それは小さい子供の聲といふ同一の媒介から聲が出るからである。

ピアノや教師の聲も亦模範として用ひてよい、ピアノの音は際立てはつきりしてゐるが教師の聲がその質に於て、子供の出さうとする調子に近いものである。勿論問題が、調子を言葉に結合するのである時には音聲が、よりよい模範である。

歌と話とは音調を出す上に多くの暗示がある。たとへば、次の如き。——

赤ん坊の喇叭が「トウト、トウト、トット、トー」

此小豚は「ウイー、ウイー、ウイー（高S調子）」と叫ぶ。

楽器の全部は指揮者従ふこと

聲の吟味

調子をそろへる事

三匹の熊は「誰か私のスープを呑んだ」(三音度)と云ふ。
 家族の歌は「これはお母さん、これはお父さん」等と音階でいふ。

子供達が曲をはつきりと聞きとれる様に、ピアノの周圍に小團が集て歌ふのはよい事である。

3 單音

多くの個人的練習は單音ですべきである——若し出来るなら他の子供達の居ない室で「赤ん坊の囁
 みの」トウー、トウー、の様に、初は子供をして自分自身の調音を作らしむべきである。それから教
 師に模倣させる——子供は小さなラッパを強く吹く事が出来るかどうかを考へて——。軽い小さい音
 調は子供達には通常高い調子と思はれてゐる。

子供を勵まして、模倣に依り一層高い調子を出させる様にし、或一つの音の高さから變じた時には
 如何に之が微細であつても褒めてやる様にするがよい。音譜の度の隔りの多い調子を歌ふ事の出来な
 い子供が、蒸汽ポンプの號笛をきいて其の眞似をした爲に音を上るようにする事を偶然に助けられる
 事がある。單音を歌ふ子供達が旋律をうたふ子供達より大きな聲で歌はないように教師はよく注意し
 なければならぬ。斯様な子供達に對しては、他の友と一處にうたふ間よく旋律に耳を傾ける様に助
 けなければならぬ。

4 歌

學期はじめ二三週間は、ごく僅しか歌は教へてはならぬ、そして其等はごく簡單なものであるべき
 だ。完結してゐる、歌の「くぎり」を用ひてもよし、たとへば Good-bye to you Good-bye Good-bye
 (Child Landin song and Phythm 中の) の様なもの。

吾々は幼稚園に於て、團唱に力を注ぐ習慣がある、それは練習の社會的性質と、歌の主題が集團に
 興味があるとの二つの理由からである。

吾々は此の種の唱歌を學年の始めに課するため悪い習慣がつくのを餘りに氣付かずに居すぎた。我
 ゝが集團の中にあつて個々の聲を聞け分ける事に慣れると、或子供達が僅かな音調しか歌へない——
 他の音調を聞かない爲に——ことを發見し得る。彼等が一人で歌ふ時には元氣なく低い聲である。た
 えす斯様にしてピアノ又は教師の聲に逆うたふと子供達は音の印象が不明になつて来る、そこで始
 めはごく小さい團唱が必要になる。吾々はこれまで學年の初めに於て十分な一人一人の歌ひ方をしな
 かつた。若し幼稚園に正しい聲團氣があり、歌はふとする場合いつでもうたへると感ずる様になつて
 ゐたら、多くの場合自己意識が強くない方がよい。一人一人のうたふ事から自發的な小さな旋律
 が生ずるのである。吾々は畫く事を教へはじめのに子供の再現を豫想して、自分達の完全な手本を
 提示しはしない。吾々は子供達が自由に想像力を働かして製作し漸次意識的結果へ近づぐ様にと奨
 勵するのである。なぜこの方法を歌ふことにも用ひないのか Good morning to you の答 I am here

といふ様な句を子供達自身の調子でうたはして見よ。春の歌秋の歌をうたふようにとらはれてた、その瞬間にそれらの歌を即座に作て歌た子がある、又他の子供達は記憶してゐた歌をうたつてゐた。創作された歌は常に朗吟調の形式である。或日子供達が爲てゐる仕事と同種の物の歌をうたつて居る時に、一人の男児が調子を外して *Mulberry Bush* といふ事を音楽的に云つた、といふのは名が云ひ難いのでリズムから考へ出したのである。子供が自分自身の簡単な曲を聞く事を覚えるのが他人の音楽を聞く基礎になる。此の寧ろ「偶然」な歌ひ方は次の様な句を小さい曲にする能力を發達させる

Hush my baby, Dum, Dum, Dum, Uppup in the Sky Go to asleep. Here my little drum.
The little birds fly.

勿論教師は最初、曲を心に留めながら、ピアノか又は肉聲で聞かせる事に依て、子供達を助けなければならぬ。之等の *Mr. Cady* の爲た事をよく知つてゐる人々は、此の小さい子供達と一處にする創造的な仕事がある價値ある結果に到達するといふ事を知てゐる。2團3團に於ては、吾々は一層、歌を教へるに先て先づ一人／＼で歌うといふ事が大切である、全團で歌をうたふ事は、ごく簡単なものゝ外は少なくしなければならぬ。旋律をうたふ事の出来る小さい團は屢々他の子供達に歌て聞かせるがよい。教師は *Good morning, Dear Children (Fill song book 中にある)* の様なむづかしい句をぬき出して模倣に依て繰り返させねばならぬ。勿論彼は常に場合に應じて全體を子供達にうたつ

効果

態度。興味。趣味。

習慣と技巧

知識

効果

態度。興味。趣味。

自分で或は他と共に、音楽を聞き又歌ふといふ事の興味。入園前に一般の子供が聞かされたものよりも高級な音楽の新しい興味。

習慣と技巧

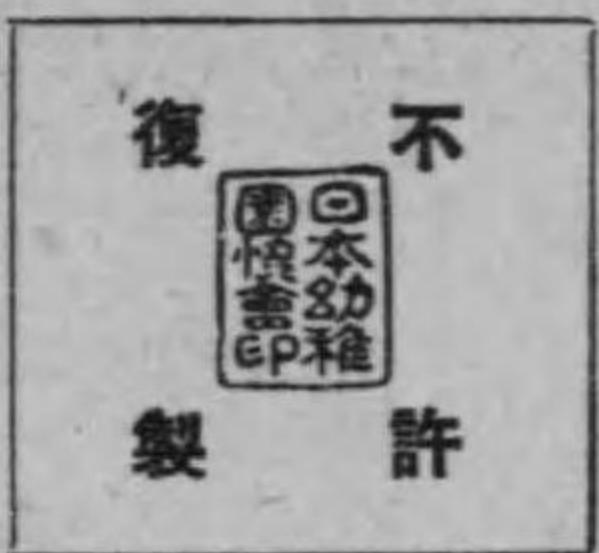
明瞭な、軽い調子を出す事。文句を繋げてうたふ事。正しい云ひ表し方から生じた自由な呼吸の積り。子供が自分であまり低くはじめた調子の度を變へる能力。

知識

特質に應じて新しいリズムの反應する能力。曲の精神の特色を區別する能力。
 一三の簡単な歌を一人でうたひ得る能力。(終)

幼稚園保育要目終

大正十三年十月廿日印刷
大正十三年十月卅日發行



正價金壹圓參拾錢
書留送料十三錢

譯者 東京女子高等師範學校內
日本幼稚園協會

發行者 東京市下谷區上根岸八十八番地
越元新吉

印刷者 東京市京橋區木挽町二丁目十三番地
石上文七郎

東京上野公園寬永寺坂下 (上根岸八十八)

發行所 教文書院

電話下谷(三)一四九〇
振替東京(四)六一一五
番番番番

271
113

終